

精神科領域専門医研修プログラム

■ 専門研修プログラム名：東京医科大学病院 精神科専門医研修プログラム

■ プログラム担当者氏名：梶屋 二郎
住 所：〒 160 - 0023 東京都新宿区西新宿 6 - 7 - 1
電話番号：03 - 3342 - 6111
F A X：03 - 3340 - 4499
E - m a i l：j-masuya@tokyo-med.ac.jp

■ 専攻医の募集人数：(13) 人

■ 応募方法：
履歴書を下記宛先に送付の上、面接申し込みを行う。
宛先：〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6 - 7 - 1
東京医科大学病院 メンタルヘルス科
梶屋 二郎
TEL：03-3342-6111 (代表)
FAX：03-3340-4499 (直通)
担当者：梶屋 二郎

■ 採用判定方法：
主任教授、准教授、プログラム担当者が履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。

I 専門研修の理念と使命

- ・ 専門研修プログラムの理念 (全プログラム共通項目)
精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。
- ・ 使命 (全プログラム共通項目)
患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。
- ・ 専門研修プログラムの特徴
本施設群は東京医科大学病院メンタルヘルス科を基幹施設とするプログラムであり、33の施設群から成り立っている。
研修基幹病院は東京都新宿区にある東京医科大学病院メンタルヘルス科である。都心に位置する特定機能病院として、質量ともに充実した診療を行う。主要な疾患の患者を受け持ち、面接法、診断と治療計画、精神療法、薬物療法、電気けいれん療法の基本を学ぶ。更に、思春期症例、人格障害、身体合併症、コンサルテーション・リエゾン精神医療の症例は豊富であり、特殊な領域(睡眠障害、措置入院)以外幅広い臨床経験ができる。また、研究・学会発表についても指導を受けることができ、学位取得を奨励している。教育にも力を入れており、専攻医のみならず、臨床研修医、臨床実習学生を含め

た屋根瓦式のシステムを構築している。

成仁病院、埼玉県立精神医療センター、成増厚生病院、千葉県精神科医療センター、国府台病院、都立松沢病院、北辰病院、清水駿府病院は、急性期精神疾患の集中医療と救急病棟を持ち、電気痙攣療法の症例も多い一方、地域医療も多角的に展開している。埼玉県立精神医療センター、成増厚生病院では依存症治療、埼玉県立精神医療センター、国府台病院、成増厚生病院では児童思春期精神科治療についても高い専門性を有した医療を実践している。かわさき記念病院では認知症を専門に治療を行っている。

虎の門病院、虎の門病院分院は総合病院の精神科で外来、入院、リエゾンの研修を経験できる。虎の門病院では勤労者の精神障害を扱う機会が多く、復職支援にかかわる経験を積むことができる。

市ヶ谷ひもろぎクリニックは都心の精神科クリニックであり、デイケア、リワークの研修が可能である。さらに様々な治験を実施しており、臨床試験を学ぶこともできる。

立川メディカルセンター柏崎厚生病院、三川病院、富士心身リハビリテーション病院、丸山荘病院、日本平病院、前沢病院、木村病院、Hanazono ホスピタル、中山病院、函館渡辺病院、ウエルフェア九州病院、吉田病院、清水駿府病院、芙蓉会病院、北辰病院、朝田病院はそれぞれ地域に密着した病院であるとともに、措置入院の受け入れも積極的に行っている。これらの施設に、基幹病院に在籍する1～2年目に週1回のパート勤務をすることができる。それにより、基幹病院でカバーしきれない領域（地域連携など）の経験を積む。また、3年目に常勤医として出張することもある。基幹病院で経験できない措置入院の症例を経験することにより、精神科専門医だけでなく精神保健指定医の症例に事欠くことはない。

協和病院、西八王子病院は、措置入院の受け入れこそやっていないが、上記の病院群と同様地域に根差した病院であり、基幹病院在籍中に週1回のパート勤務をすることができる。また、基幹病院と地理的に近く、患者の紹介逆紹介を積極的に行っている。

立正佼成会附属佼成病院は、東京都杉並区の中でも高齢者の多い地域にある総合病院であり、総合病院の中にある精神科として、他診療科、地域の医療機関や施設と連携し、身体的治療や看護、介護などとの兼ね合いを重視し、こころと体の健康の支えとなることを目指している。精神科病床はなく、外来診療とコンサルテーション・リエゾン精神医療が主たる業務である。このような環境の中で、特に老年期の精神医療やコンサルテーション・リエゾン精神医療を中心に、無床総合病院精神科において精神科医が担う役割について学ぶことができる。

東京医科大学茨城医療センターと東京医科大学八王子医療センターはそれぞれ地域の大学病院として、地域医療に貢献している。両院ともに精神科病床はなく、外来診療とコンサルテーション・リエゾン精神医療が主たる業務である。東京医科大学八王子医療センターでは生体臓器移植のドナー・レシピエントの精神医学的評価に携わることができる。東京医科大学八王子医療センターは日本総合病院精神医学会認定研修施設であり、同院で研修すると日本総合病院精神医学会の専門医および指導医の申請資格が生じる。

国立精神・神経医療研究センター病院は我が国の精神科のセンターとなる病院であり、精神科医療政策、基礎・臨床研究、医療観察法入院医療などの司法精神医学臨床、依存症治療、認知行動療法、など広範囲を網羅する精神科研修が可能である。

典型的なローテーションパターンとしては、はじめの1年半基幹病院に在籍し、週4～5日の日勤及び週1回程度のオンコール業務につく。また週1日の研究日にパート勤務を認めており、上記の連携病院のいずれかに勤務する。1年半後以降に連携病院をローテーションして研修する。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数：159人
- 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	8746	2775
F1	3246	1532
F2	32233	6715
F3	23907	3544
F4 F50	12143	1074
F4 F7 F8 F9 F50	6005	1039
F6	1145	289
その他	3411	533

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

- ・施設名：東京医科大学病院
- ・施設形態：大学病院
- ・院長名：山本 謙吾
- ・プログラム統括責任者氏名：井上 猛
- ・指導責任者氏名：榊屋 二郎
- ・指導医人数：（ 7 ）人
- ・精神科病床数：（ 19 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	378	32
F1	74	9
F2	756	63
F3	1544	72
F4 F50	968	18
F4 F7 F8 F9 F50	111	5
F6	152	15
その他		

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は2016年に創立100周年を迎え、都心に位置する特定機能病院として、良質で高度な医療を提供することを使命としている。標準治療はもとより、新規医療技術の開発や種々の臨床研究を積極的に行っている。また、「チーム東京医大で安心・安全な医療の提供」をテーマに、医療安全とインフォームドコンセントを徹底することで、患者さん中心の医療と信頼関係の構築を心がけている。メンタルヘルス科の診療は、メンタルヘルス科病棟、メンタルヘルス科外来、コンサルテーション・リエゾンサービスの3つの柱に分かれている。

- ・当科病棟には19床の閉鎖病棟を持ち、約10人/月の新入院患者を受け入れている。薬物療法、精神療法、環境調整が治療の主体であるが、治療抵抗例には修正型電気けいれん療法を行う。
- ・当科外来では約3600人/月の診療にあたっており、全国80大学病院の中でも屈指の外来患者数であり、それだけに多彩なケースを診ることができる。
- ・科内に設置されている「こどものこころ診療部門」では小児科と連携した児童思春期精神科医

療を多く学ぶことが可能である。また、院内の高齢診療科との連携した認知症治療症例も多く学ぶことが可能である。

・総合病院のメンタルヘルス科として、約 60 人/月の患者に対しコンサルテーション・リエゾンサービス (CLS) を行っている。

これらの 3 つの柱がお互いを補完する形で診療が成り立っている。例えば、外来治療で入院を要する状態になったら病棟にて治療をし、軽快したらまた外来治療に移行する。一方、CLS では内科、外科、救命救急センターなど様々な科から依頼を受け、他科との連携、精神科的治療にあっているが、その中には身体状態が安定してからも精神科治療の継続が必要なケースも多く、その場合当科病棟または外来にての治療に移行する。

このような診療体制の特性から、うつ病や統合失調症といった主要疾患のみならず、不安障害、摂食障害やパーソナリティ障害から器質性・症状性の精神障害まで、幅広い診療を行うことができる。近年増加が指摘されている発達障害の臨床を深く学ぶことも可能となっている。また、社会人大学院へ入学することにより、働きながら 4 年で学位を取得できる。これまでに、連携病院である成仁病院からは 3 名の医師が学位を取得しており、現在も 4 名社会人大学院生を受け入れている。

当科の診療スタンスは、基本的に「目の前にいる患者は全て診る」というところにある。新宿という立地、地域の医療機関との連携もあり、多彩かつ十分数の患者が外来に集まってくる。現代のストレス社会を生きている人間は様々なストレスにさらされ、そのために多彩な症状を呈することがある。一方、身体疾患において、常に「こころ」は影響を受け、様々な精神的反応や症状が生じる。こうした事例に対応するリエゾン精神医療は医学が高度になればなるほど大切なものとなり、その知識は全ての臨床医に必要と言える。将来、臨床医を目指す学生が身体疾患のみならず、精神面への配慮を常に行い、全人的医療を行っていただけることを望んでいる。

週間計画、年間計画を別紙 2 と 3 に示す。

B 研修連携施設

1. 施設名：医療法人社団 成仁病院

施設形態：民間病院

院長名：窪田恭彦

指導責任者氏名：春日武彦

指導医人数：(5) 人

精神科病床数：(114) 床

疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	423	86
F1	107	47
F2	897	508
F3	909	345
F4 F50	521	76
F4 F7 F8 F9 F50	63	22
F6	36	16
その他	59	3

・施設としての特徴 (扱う疾患の特徴等)

急性期精神疾患の短期集中治療と早期退院に特化した単科精神科病院である。入院精神科医療全般について学ぶことができる。平均在院日数は 30 日強で、スーパー救急病棟である。救急

件数は都内随一であり、相談件数は月平均 130 件超である。また、m-ECT 導入は年間 2,000 件を数える。

精神科ショート、デイ、デイナイトケアや、アウトリーチ事業も積極的に行っており、精神科訪問看護、訪問診療、相談支援事業など多角的に展開。再入院率を減らし、退院後の定期的な通院医療や地域生活への定着に力を入れている。

役割機能別業務体制、トリアージシステムをはじめとした独自のシステムを採用している。症例数は都内最多、指定医に必要な症例が網羅でき、早期に実力をつけることができる。

これまでの実績として過去 8 名の医師が在籍中に指定医を取得し、現在も 1 名申請中である。また、4 名の医師が東京医科大学社会人大学院にて学位を取得、現在 3 名が在学している。

*併設施設等：m-ECT、措置指定、応急指定、精神科ショート・デイ・デイナイトケア、精神科救急輪番、医療観察法指定通院医療機関、成仁介護老人保健施設、亀有訪問看護ステーション、地域包括支援センター中川、成仁相談支援事業所、就労移行支援事業所（Job 庵）

週間計画、年間計画は別紙 4 に示す。

②施設名：医療法人社団愛陽会三川病院

- ・施設形態：民間病院
- ・院長名：錦織 靖
- ・指導責任者氏名：錦織 靖
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 9 6 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	2 2 5	1 3 5
F1	2 9	2 1
F2	1 2 9	8 1
F3	1 8 7	2 5
F4 F50	7 1	4
F4 F7 F8 F9 F50	4 2	3
F6	5	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、認知症病棟(48 床)、精神療養病棟(48 床)、医療療養病棟(内科系)(98 床)の計 194 床にて診療を行っている。障害者総合支援法による福祉施設と、介護保険による有料老人ホームの運営も行っているため退院後の継続的総合的支援の実践経験も積むことができる。

精神系病棟の入院患者さんの症例は広く精神障害全般に亘り、措置入院も少数ではあるが受け入れている。時間をかければ広い分野の症例を経験可能。認知症病棟は認知症系疾患全般の患者さんを受け入れている。BPSD への対応、症状進行の可能な範囲の予防、生活機能回復訓練、専門的薬物療法の治療を経験できる。認知症患者さんは合併症をお持ちの方も多いため、身体的疾患の管理・対応を含めて治療しないと精神状態の安定が得難い場合も多い。本院は内科医との連携により、このような患者さんの診療も経験できる。物質使用障害(アルコール)の方に対しては、アルコールリハビリテーションプログラムも施行している。入院診療研修として当初 3 カ月間、指導医と一緒に主治医として診療していただいている。その後、疾患群ごとに選ばれた又は自分の関係する外来診察からの入院患者さんを担当して、診療上の指導を指導医から適時に受けていただく。

外来研修は、初期 3 カ月間は週一回指導医診察に同席していただき、診察直後に質問を受け、その要点を指導する。3 カ月後、半日単位の外来を週に 1 単位程度担当していただきながら、本人からの質疑に適時対応する。

また、希望により、認知症初期集中支援チーム、知的障害者更生施設や特別養護老人ホーム、障害者総合支援法によるグループホーム、就労支援施設、学校医や精神保健相談業務の説明と体験も可能なプログラムとなっている。

年間計画表、週間予定表をそれぞれ別紙 5、別紙 6 に示す。

③ 施設名：立川メディカルセンター柏崎厚生病院

- ・施設形態：民間病院
- ・院長名：松田ひろし
- ・指導責任者氏名：吉濱 淳
- ・指導医人数：(4) 人
- ・精神科病床数：(240) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	334	101
F1	55	23
F2	447	143
F3	780	93
F4 F50	301	15
F4 F7 F8 F9 F50	415	33
F6	5	1
その他	84	4

- ・施設としての特徴 (扱う疾患の特徴等)

当院は新潟県長岡市にある立川総合病院を中心とする立川メディカルセンターに含まれる、精神科病床 240 床 (精神科急性期治療病棟 34 床、精神療養病棟 106 床、認知症治療病棟 100 床)、内科病床 60 床を有する病院である。認知症疾患医療センターの指定を新潟県より受けており、周辺には老人保健施設米山爽風苑、指定障害福祉サービス事業所自在館、認知症老人グループホーム五楽庵、地域包括支援センター茨内があり、訪問看護など多職種によるアウトリーチ活動にも力を入れている。また当院は平成 16 年度から実施された医師臨床研修制度の当初から、立川総合病院の協力型研修病院として多くの初期研修医や後期研修医の精神科臨床研修の場となってきた。現在も立川総合病院や柏崎総合医療センターの協力型臨床研修病院だけでなく、東京医科大学の地域医療研修施設にもなっており、新宿区の東京医大病院や八王子医療センター、茨城医療センターから毎月数名の初期研修医が研修を行っている。週間スケジュール、年間スケジュールをそれぞれ別紙 7、別紙 8 に示す。

④施設名：協和病院

- ・施設形態：単科精神科病院
- ・院長名：椿 雅志
- ・指導責任者氏名：椿 雅志
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(179) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	15	11
F1	6	5
F2	62	145
F3	33	4
F4 F50	18	0
F4 F7 F8 F9 F50	0	12
F6	0	3
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、精神科一般病棟 179 床にて診療を行っている。入院患者さんは統合失調症を中心として広く精神障害全般に亘る。八王子市にあり東京都の精神科救急後方当番システムに参加しており、また東京医科大学病院にて長期入院を要すると判断された患者さんを積極的に受け入れ、大学病院の若手医師が長期に亘って診療できるように配慮している。入院が長期となる高齢の患者さんは合併症を併発する 경우가多々あるが、当院は東京医科大学八王子医療センターとの連携診療を行っており、身体的に重症化した患者さんに対しては可能な限り速やかな対応が出来る体制となっている。また、長期入院患者さんに対する社会復帰援助にも力を注いでいる。入院中は S S T（生活技能訓練）を行い社会復帰に向けた問題解決能力の向上を目指し、退院に向けたプログラムを実施している。病院近辺に退院した患者さんに対しては精神科訪問看護を実施し、服薬中断や再発の防止、地域生活への適応促進を図っている。

週間スケジュール、年間スケジュールを別紙 9 に示す。

⑤施設名：日本平病院

- ・施設形態：単科精神科病院
- ・院長名：加藤亮太
- ・指導責任者氏名：加藤亮太
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 189 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	27	68
F1	3	7
F2	116	151
F3	110	16
F4 F50	104	2
F4 F7 F8 F9 F50	10	4
F6	1	1
その他	1	1

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 15：1 精神病棟（39 床）、精神療養病棟（150 床）の計 189 床にて診療を行っている。法人内には介護老人保健施設、就労継続支援 B 型事業所を有しており、有機的な連携が取れている。

当院の常勤医師は全員精神保健指定医で、うち 3 名は日本精神神経学会精神科専門医制度の指導医のため、研修において手厚いサポート体制にある。

入院患者の症例は、統合失調症・気分障害・認知症・器質性精神病など幅広く、措置入院の受け入れも行っている。入院患者への治療は精神科専門療法や薬物療法のほか、生活技能訓練（SST）

や作業療法（OT）も経験できる。入院診療研修では、初期は指導医の診察に同席し指導を受け、その後、各症患者の患者を担当し、診療上の指導を指導医より適時受けて頂く。外来においては、精神科デイケアと精神科訪問看護を行っているため、通常の外来診察以外にも経験が可能である。なお、外来の研修では指導医診察に同席し要点の指導を受ける。その他、介護老人保健施設入所者の診察や、精神保健相談への同席も可能なプログラムとなっている。週間スケジュール、年間スケジュールをそれぞれ別紙 10、別紙 11 に示す。

⑥施設名：富士心身リハビリテーション研究所附属病院

- ・施設形態：単科精神科病院
- ・院長名：引場 智
- ・指導責任者名：引場 智
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 210 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	55	44
F1	0	1
F2	210	138
F3	284	59
F4 F50	220	5
F4 F7 F8 F9 F50	48	0
F6	2	1
その他	48	2

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は1970年開設以来、長年にわたり精神神経科を主とした診療を行い、現在常勤5名・非常勤8名、計13名の医師が所属している。

病棟は、精神一般病棟（45床）が2病棟、精神療養病棟（60床）が1病棟、認知症治療病棟（60床）が1病棟、計210床の入院施設がある。

症例としては幅広く、精神障害全般において受入れており、精神保健指定医・精神科専門医などの取得に適した症例を経験することや、認知症臨床専門医の医師や認知症者支援医療機関ネットワークで活動する医師が指導医としてあたるため、認知症に関しても専門的な知識の習得ができる。指導医の下で入院患者を受け持ち、臨床精神科医に求められる面接や診断、治療についての基礎的な技術が学べる。

外来診察は月曜から金曜日と、会社勤めの患者さんのため月1回の日曜外来、そしてサテライトクリニックでも診察を行っていることから、指導医の外来の診療、薬物療法、精神療法、家族への対応などについて学んだあと、初診患者さんの相談や予診を行っていく。一般的な精神疾患や慢性精神疾患の他、措置鑑定、簡易鑑定などの機会もあり、指導医の下、鑑定に同席あるいは助手として鑑定にも携わる。措置鑑定での症例は、臨床精神科医としての総合的な能力を身につけられる。

入院から退院、また退院後の患者さんの社会復帰と地域移住のため、作業療法、精神科デイケア（小規模）、精神科訪問指導も行っている他、病院と同一敷地に介護老人保健施設と、グループホームを併設していることもあり、患者さん本人並びにご家族の意向に沿った提案も可能であり、退院後も治療を通じて一貫した経過観察ができる構成になっている。症例検討会や入退院の報告会を定期的に開催し、それを医局研究会や各種学会発表につなげる意向があれば、そのための論文作成などの指導も行う。

週間スケジュール、年間スケジュールをそれぞれ別紙 12、別紙 13 に示す。

⑦施設名：医療法人滝田会 丸山荘病院

- ・施設形態：単科精神科病院
- ・院長名：山城 尚人
- ・指導責任者氏名：山城 尚人
- ・指導医人数：(3) 人
- ・精神科病床数：(194) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	12	27
F1	13	25
F2	98	154
F3	44	9
F4 F50	27	0
F4 F7 F8 F9 F50	84	24
F6	7	1
その他		

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は精神科病棟74床及び精神科療養病棟120床を有している。その内10床は県の指定病床であり応急入院指定も受けている。

輪番制精神科救急制度にも参画、医療観察法の鑑定入院、外来病院にも指定されている。

更に茨城県では認知症初期集中支援制度を先駆的に推進している石岡市のサポート医も引き受けている。作業療法棟、社会復帰施設としてグループホームを併設している。

従って、ICD-10のカテゴリー中すべての（児童、発達障害は確定診断後）疾病を経験可能である。

又、急性期から慢性期に至る時系列での症例経験も出来る。

加えて夜間、休日の緊急診察入院、医療観察法における鑑定入院、通院

措置入院、医療保護入院などの非自発的入院、認知症初期集中支援制度における未受診例、医療中断例を治療につなげるケース等々、精神科ではほとんどの治療場面が経験可能である。

又、障害者総合支援法を利用した社会復帰も経験できる。

これらすべての症例に於いて指導医及び非常勤専門医の指導助言のもと、主治医となることができる。

週間計画、年間計画をそれぞれ別紙14、別紙15に示す。

⑧施設名：立正佼成会附属佼成病院

- ・施設形態：総合病院
- ・院長名：甲能 直幸
- ・指導責任者氏名：中野 正寛
- ・指導医人数：(1) 人
- ・精神科病床数：(0) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	79	104
F1	11	9

F2	53	4
F3	100	17
F4 F50	4	0
F4 F7 F8 F9 F50	192	36
F6	10	2
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、宗教法人立正佼成会の社会貢献事業の一環として昭和27年に東京都中野区に開設された。平成26年9月に一般病床300床、緩和ケア病床20床、療養病床20床を有する杉並区の新病院に移転し、現在に至る。当院は27診療科を有し、杉並区の中でも比較的高齢者が多い地域にあり、その地域に根ざす総合病院である。総合病院の中にある精神科として他診療科、地域の医療機関や施設などと連携し、身体的治療や看護、介護などとの兼ね合いを重視し、こころと体の健康の支えとなることを目指している。当科は常勤の精神科医1人と非常勤の精神科医1名の体制であり、必要に応じて臨床心理士に患者さんの心理学的側面の評価を依頼し、精神状態の把握や治療方針の判断の際の支援を得たり、当科診療とともに臨床心理士のカウンセリングを併用したりして連携しながら診療を行っている。当院には精神科病床がなく、外来診療と他診療科の入院患者さんが抱える精神的問題への対応が主たる業務である。外来診療では気分障害や神経症性障害、ストレス関連障害、認知症の行動・心理症状(BPSD)などへの対応が主であり、他診療科の入院患者さんには、身体疾患や環境変化などに伴うせん妄の出現やBPSDの悪化、うつ状態の対応、もともと抱えている精神科疾患の対応などを行っている。このような環境の中で、特に老年期の精神医療やコンサルテーション・リエゾン精神医療を中心に、無床総合病院精神科において精神科医が担う役割について学ぶことができる。

週間予定表、年間予定表を別紙16に示す。

⑨施設名： 前沢病院

- ・施設形態： 単科精神科病院
- ・院長名： 前沢 孝通
- ・指導責任者氏名： 前沢 孝通
- ・指導医人数：(2)人
- ・精神科病床数：(105)床
- ・疾患別入院数・外来数(年間)

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	20	22
F1	2	0
F2	225	122
F3	101	15
F4 F50	6	3
F4 F7 F8 F9 F50	86	1
F6	1	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

週間計画、年間計画はそれぞれ別紙17、別紙18に示す。

当法人は、栃木県の南端に位置し、別紙19に記載している通り、精神科病院を中核に各種関連施設が整備されており、主に「維持・回復期にある精神疾患患者の社会復帰・地域生活支援」と「認知症高齢者の治療と介護」に力を入れて取り組んでいる。

それぞれの事業の専門性を生かしながら、様々な形で在宅療養から入院治療までのサポートを実践している。

⑩施設名：西八王子病院

- ・施設形態：精神科病院
- ・院長名：三根 芳明
- ・指導責任者氏名：三根 芳明
- ・指導医人数：(4) 人
- ・精神科病床数：(182) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	33	17
F1	11	5
F2	166	80
F3	225	108
F4 F50	74	36
F4 F7 F8 F9 F50	0	0
F6	11	5
その他	8	4

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は1998年に東京都で初めてのストレスケア病棟を開設し、うつ病うつ状態治療に特化したアメニティと治療プログラムを備えている。中でも集団認知行動療法プログラム、運動療法プログラムはうつ病への治療効果の有用性が確認されてきており他院でも行われている施設は少ない。また医師のみならず、看護師、精神保健福祉士、心理士、作業療法士、薬剤師、栄養士など多職種によるチーム医療を実践している。急性期治療病棟では重篤な症例や統合失調症など精神病圏の症例を主に治療を行っている。週に1度多職種によるカンファレンスを行い、治療パスを応用しながら3ヶ月間での治療を目標に精神療法、薬物療法、作業療法、治療教育プログラムなどを行っている。一般病棟、療養病棟では、急性期治療後の治療に加え生活療法や退院に向けての環境調整を行っている。これら精神科病床（182床）に加えさらにリエゾン病棟として45床の内科病棟を備えており、腎透析療法をはじめとした精神科合併症疾患へも対応している。

社会復帰に向けた自立訓練事業所である「川口ハイツ」定員20名を併設しており、地域の障害者を支援するために、訪問看護やデイケア活動を行っている。また患者家族会を定期的に行っている。さらに施設内には老人保健施設ウエストケアセンター（125床）を運用している。

サテライトクリニックとしては、八王子市内にストレスケアクリニックイムス八王子およびこころのクリニックイムス八王子があり、こころのクリニックイムス八王子ではうつ病圏休職者の職場復帰をサポートする復職デイケアを行っている。

当院へは以上の精神科を中心とした入院治療、外来治療、社会復帰、地域サポート、内科的治療を軸とした精神科治療をトータルに習得することができる。また、精神科指導医4名体制で求められる基礎的面接、診断、治療などの技術を学ぶことができる。なお当院はIMSグループ板橋中央総合病院、横浜旭中央総合病院、春日部中央総合病院、新松戸中央総合病院、東戸塚記念病院、行徳総合病院よりの臨床研修医教育を受け入れている。

年間予定表、週間予定表をそれぞれ別紙20、別紙21に示す。

⑪施設名：東京医科大学茨城医療センター

施設形態：大学付属病院

院長名：福井 次矢
 指導責任者氏名：東 晋二
 指導医人数：(1) 人
 精神科病床数：(0) 床

疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	57	
F1	3	
F2	63	
F3	116	
F4 F50	35	
F4 F7 F8 F9 F50	69	
F6	1	
その他	7	

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当研修施設は、茨城県県南地域の地域医療中核病院の一角を成すと共に、大学付属の総合病院として、また地域がん診療連携拠点病院として、高度な水準の臨床・教育・研究を推進する使命を持って業務にあたっている。地域医療機関との病診連携により精神科外来治療の研修機会が多い。精神科入院治療については、当研修施設は精神科病床を持たない総合病院精神科であるため、精神科入院治療が必要な症例の診療や精神科入院治療の研修に当たっては、当大学の付属病院本院にあたる東京医科大学病院との連携を軸に、地域の日本精神神経学会研修施設である複数の病院とも連携して行っている。総合病院精神科として、また地域がん診療連携拠点病院精神科として、コンサルテーション・リエゾン業務の研修機会が多い。

うつ病や統合失調症をはじめ、摂食障害や人格障害の診療から 器質性・症状性の精神障害に対する診療など幅広く研修を行うことができる。指導医は認知症の専門医であり、認知症の診断と治療を深く学ぶことができる。また非常勤の指導医として子どものこころ専門医機構専門医が東京医科大学病院から出張できて週1回診療しているため、自閉症スペクトラムや注意欠如多動性障害などの神経発達障害症例も多く学べるのが特徴である。

指導医の下で各種の精神科医療に従事し、また、症例検討会・ケーススーパービジョン（外来症例やリエゾン症例などの個別症例指導）を通じて、精神科医としての態度（姿勢）、知識、技能の習得、研鑽に努め、精神科専門医を目指すものとする。週間計画、年間計画は別紙 22 に示す。

⑫施設名：東京医科大学八王子医療センター

施設形態：大学病院

院長名：池田 寿昭

指導責任者氏名：藤村 洋太

指導医人数：(1) 人

精神科病床数：(0) 床

疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	0	39

F1	0	61
F2	0	88
F3	0	59
F4 F50	0	57
F4 F7 F8 F9 F50	0	28
F6	0	71
その他	14	27

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

東京医科大学八王子医療センターは八王子市の人口約 56 万人を含めた南多摩医療圏 142 万人の中核病院として、許可病床数 610 床および 34 の標榜科を有する医療機関である。当センターは、三次救命救急センターとがん診療連携拠点病院の指定を受けており、また生体肝移植や生体腎移植などの移植医療も盛んに行われており、当院での研修ではドナー及びレシピエントの精神医学的評価についての研修を行える。

当センターは精神科病床を有しない。メンタルヘルス科では、身体疾患の治療で入院している患者が入院中に来たしややすい、不眠、不安、抑うつ、せん妄などの精神・身体症状を対象として、各診療科の医師やスタッフと協力してチーム医療を行い、本来の身体疾患の治療が滞りなくスムーズに行えるよう心身両面での回復の援助を行っている。また、様々な精神科疾患を有する患者が身体疾患に罹患し当センターでの入院治療を受ける際に当科も並診し、適宜精神科専門医の視点による治療的介入を行っている。そのため、当院での研修ではコンサルテーション・リエゾン精神医療全般について学ぶことができる。当院は日本総合病院精神医学会の研修施設に指定されており、当院で研修することにより総合病院精神医学会の専門医と指導医の申請資格が生じる。また、当センターには広域で大勢の人口を有する医療圏域を背景とした三次救命救急センターがあり、自殺未遂や自傷行為で入院する患者が多いため、そのような行動を呈する患者への重要な初期対応を学ぶことができる。年間計画・週間計画を別紙 23 で示す。

⑬施設名：HANAZONO ホスピタル

施設形態：私立精神科病院

院長名：山角 駿

指導責任者氏名：山角 駿

指導医人数：（ 2 ）人

精神科病床数：（ 234 ）床

疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	87	42
F1	7	4
F2	273	198
F3	126	27
F4 F50	99	13
F4 F7 F8 F9 F50	5	2
F6	4	2
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

HANAZONO ホスピタルは 234 床を有する単科精神科病院であり、思春期から老年期までのすべての年代にわたる精神科臨床を対象としている。複数の付属のグループホ

ームがあり、同時に地域の社会復帰資源を利用し、社会復帰活動を活発に進めるとともに地域精神医療に積極的に取り組んでいる。また、司法精神医学分野では医療観察法の鑑定入院医療機関、指定通院医療機関であり、医療観察法の対象者への医療提供を行っている。

年間計画・週間計画を別紙 25 で示す。

⑭施設名：・施設名：医療法人学而会木村病院

- ・施設形態：精神科単科病院
- ・院長名：渡邊 博幸
- ・プログラム統括責任者氏名：渡邊 博幸
- ・指導責任者氏名：松木 悟志
- ・指導医人数：(4) 人 令和 3 年 4 月 1 日付
- ・精神科病床数：(130) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	520	13
F1	537	6
F2	15847	214
F3	8184	149
F4 F50	2653	4
F4 F7 F8 F9 F50	208	62
F6	243	0
その他	798	4

・施設としての特徴 (扱う疾患の特徴等)

医療法人学而会木村病院は、2018 年に創立 90 年を迎え、都市型の精神科単科病院として、地域精神科医療における新しい医療課題に対しての先駆的な取り組みを行っている。病棟は、精神科救急算定病棟 1 棟 (48 床)、療養閉鎖病棟 1 棟 (60 床)、ストレスケア病棟 (療養開放) 1 棟 (35 床) の 3 病棟 (143 床：改装工事のため 26 床空床) からなる。また外来は、常時 4 診、2 つの専門外来 (女性のこころ専門外来と遠隔診療外来) を有す。さらに年間 2,000 件を超える訪問アウトリーチを行っている。千葉県精神科救急基幹病院として、精神病圏や気分障害圏の救急／急性期入院治療、クロザリル症例に対応している他、退院支援・地域移行にも積極的に取り組み、精神障害に対応した地域包括ケアシステム構築のモデル事業にも積極的に参画している。さらに、①New Long Stay 防止のための急性期入院治療プログラム、②周産期メンタルケア (女性のこころ専門外来と入院治療)、③ストレスケア病棟での集団心理療法・作業療法プログラム治療、④児童思春期治療と虐待防止チームの導入、⑤ハローワークや企業との三者合同による就労支援・就労移行支援プログラムの実践、⑥訪問看護や訪問診療などの精神科アウトリーチ、⑦IT デバイスを用いた精神科遠隔診療専門外来、⑧司法精神医学の研鑽などにも、多職種チームやプロジェクトを編成して取り組んでいる。研修の中でのこれらの実践を経て、アンメットメディカルニーズを理解し、多機関連携・多職種連携、ピアサポーターとの協働などを深く経験することが可能である。

年間計画・週間計画を別紙 24 で示す。

⑮ 施設名：医療法人静和会中山病院

- ・施設形態：民間病院
- ・院長名：工藤 行夫
- ・指導責任者氏名：工藤 行夫
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(337) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	412	269
F1	5	3
F2	333	160
F3	35	17
F4 F50	1	1
F4 F7 F8 F9 F50	11	7
F6	0	0
その他	352	0

- ・施設としての特徴 (扱う疾患の特徴等)

当院は千葉県市川市の中山法華経寺の敷地内にあり、753年の歴史を有する精神科病床 337床 (精神科病棟 29床、精神療養病棟 143床、認知症治療病棟 165床) を有する病院である。当院は精神科医療において基本的人権を尊重し共感と尊敬の念を持ち患者さんの社会復帰のための支援に努めてまいります。地域の医療・保健・介護・福祉などの機関とも連携を取り、医療に関するプロフェッショナルがチームで連携・協力しケアすることで、多角的かつ専門的な立場からアプローチさせていただきます。病院の関連施設としては、サンシルバー市川・サンシルバー町田 (介護老人保健施設)、福寿園横浜・福寿園ひばりが丘・福寿園みなみ野 (特別養護老人ホーム)、さざんかクラブ (地域活動支援センター)、サルビア荘・ポプラ荘 (グループホーム) を有し、患者の福祉ケアにも力を入れています。

週間スケジュール、年間スケジュールを別紙 26 に示す。

⑩・施設名：社会医療法人博栄会 函館渡辺病院

- ・施設形態：精神科中心の私立総合病院
- ・院長名：菅原 隆光
- ・指導責任者氏名：三國 雅彦
- ・指導医数：(6) 名
- ・精神科病床数：(443) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F 0	1,094	393
F 1	183	80
F 2	1,468	431
F 3	1,682	246
F 4 F 50	931	104
F 4 F 7 F 8 F 9 F 50	45	44
F 6	19	9
その他	259	119

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は一般病床 120 床の身体科病棟と精神病床 59 床の身体合併症病棟を有し、身体科医師 17 名が常勤する精神科中心のいわゆる総合病院であり、「こころと身体のトータル医療の実践」をモットーとする道南の精神科基幹病院である。統合失調症やうつ病などの主要精神疾患の他、精神科救急、精神疾患患者の身体合併症、認知症、てんかんの診療にあたるとともに、一般身体科受診患者のうつ病、適応障害、せん妄、認知症合併症例などの多彩な疾患にリエゾン対応している。指導医や多職種チームメンバーに交じって少人数の精神科専攻医が多数の症例について診断治療に当たり、患者背景や社会復帰の阻害要因の解決法を探る経験ができる利点は大きいといえる。道南唯一のクロザピン登録医療機関として、治療抵抗性統合失調症の治療にあたっており、また、mECT 療法も実施しているので、他院からの依頼・紹介患者も多い。アルコール依存症や覚せい剤後遺症などについては依存症プログラムを実施し、多職種が関わって治療にあたっている。また、医療観察法指定通院医療機関であり、対象者ごとに多職種チームが編成されている。

したがって、経験できる症例はほぼすべての精神疾患群を網羅しており、精神科研修研究支援センターを中心にして、6 名の指導医や多くの上級医、北大からの出張医から懇切な指導を受けることができる態勢となっている。当院での勉強会のほか、北大精神科で毎週行われる勉強会が Web でライブ配信されており、インターネットで参加が可能であり、北海道大学図書館のリモートアクセスサービスで文献検索もできる態勢が整っている。週間スケジュール、年間スケジュールを別紙 27 に示す。

⑰施設名：ウエルフェア九州病院

- ・施設形態：単科精神科病院
- ・院長名：鮫島 稔弥
- ・指導責任者氏名：鮫島 稔弥
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 175 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	353	110
F1	20	9
F2	204	31
F3	381	41
F4 F50	221	8
F4 F7 F8 F9 F50	63	9
F6	2	0
その他	59	0

・施設としての特徴

鹿児島県枕崎市にある単科精神科病院である。精神科救急の要件を満たす社会医療法人の開設病院として、南薩精神科医療圏の精神科救急システムにおける二次拠点病院として、措置入院、応急入院、医療保護入院などの精神科救急や時間外診療に対応している。認知症治療病棟（50 床）、精神療養病棟（閉鎖 46 床）、精神療養病棟（開放 47 床）、精神科急性期治療病棟（32 床）の 4 病棟（175 床）の機能を有している。措置入院・応急入院指定病院であり、措置・緊急措置・応急入院の対応も可能である。病院関連事業として精神科デイケアを有し、認知症疾患医療センター

としては当地域の認知症治療の中核を担っている。法人関連施設として、地域活動支援センター、社会復帰アパートを有する。医師、薬剤師、看護師、臨床心理士、作業療法士、放射線技師、栄養士、精神保健福祉士などの多職種によるチーム医療を行い、関連事業・施設や地域の医療機関等と連携し、入院から退院、退院後の支援を行っている。急性期から回復期、在宅復帰支援などの治療病棟を中心とした入院精神科医療全般について学ぶことができる。青年期から老年期、身体合併症など、対象としている疾患は多岐に及んでいる。入院症例は認知症、統合失調症、気分障害、物質依存など精神科医として最低限知っておかなければならない疾患についてカバーしている。

クロザリル登録医療機関であり、治療抵抗性の統合失調症患者に対してクロザリルを使用した治療を行っている。

地域の特性として高齢者の割合が高く、また認知症疾患医療センターを設置していることもあり、認知症患者の相談件数が多く、ICD-10 全般の症例を扱っている。

常勤医のうち、6名が精神保健指定医、内5名が精神科専門医、内4名が精神科専門医指導医であり、これまで当院在籍中に、5名が精神保健指定医を取得しており、積極的に公的な業務や指導にあたっている。

週間スケジュール、年間スケジュールを別紙 28 に示す。

⑱施設名：国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院

- ・施設形態：国立高度専門医療研究センター（ナショナルセンター）
- ・院長名：阿部康二
- ・指導責任者氏名：鬼頭伸輔
- ・指導医人数：（ 20 ）人
- ・精神科病床数：（ 191 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	410	55
F1	290	61
F2	1402	285
F3	1701	225
F4 F50	1555	138
F4 F7 F8 F9 F50	700	77
F6	138	14
その他（てんかん）		18

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

一般精神 123 床（閉鎖病棟 82 床、開放病棟 41 床）及び心神喪失者等医療観察法 68 床の計 191 床を有する。入院の多くは救急・急性期治療および検査入院の患者であり、身体合併症にも対応している。研修過程ですべての領域の精神疾患について経験することが可能であるが、特にうつ病、双極性障害、統合失調症、認知症、依存症、てんかん、睡眠障害は専門外来があり、専門医による指導を受けながら貴重な症例を経験できる。クロザピンを含む薬物療法、電気けいれん療法、個人精神療法（特に認知行動療法）、集団精神療法、精神科リハビリテーションなどの治療が柔軟に組み合わせられ、多職種チーム医療に重点をおいている。院内には脳波（長時間ビデオモニタリング、睡眠ポリソムノグラフィーを含む）・CT・MRI・核医学検査（SPECT, PET）・光トポグラフィー・脳磁図など高度医療機器が整備され、これらを用いて診断を行うとともに、読影について学習する。臨床研究に関するセミナーを受講し、上級医の指導のもと研究協力者として参加することも可能である。

年間計画・週間計画を別紙 29 で示す。

①⑨施設名：市ヶ谷ひもろぎクリニック

- ・施設形態：無床診療所
- ・院長名：土井直人
- ・指導責任者氏名：本郷誠司
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床

疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	0	0
F1	8	0
F2	171	0
F3	1468	0
F4 F50	293	0
F4 F7 F8 F9 F50	122	0
F6	13	0
その他	366	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院の法人母体は福島県白河市にあり、1966年に単科精神科病院として開設した。2004年に病棟を閉鎖し、精神障がい者でも住み慣れた地域で自立した生活を営むことが出来るよう、外来治療を中心としたクリニックに転換。以来、大規模な精神科デイケアや訪問診療、グループホーム、就労支援事業所などを開設し、地域の精神医療の中核を担っている。

当院は、2004年に東京都豊島区巣鴨に開設し、2016年10月に新宿区市谷に移転。

外来部門において、非常勤医師を含め精神科専門医10名が勤務。常時2診以上で診療にあたり、2018年度の年間外来延べ患者数は25,400人、新患者数は年間1,300人を受け入れている。診療対象疾患については、うつ病や統合失調症といった主要疾患以外に、発達障害やパーソナリティ障害、器質的な精神障害まで幅広い診療が可能である。また、鑑別の難しい男性更年期障害については、常勤の泌尿器科専門医と精神科専門医が共同で治療を行う体制を組んでいる。

精神科デイケアは、復職や就職を目指すリワークデイケアと自立生活を目標とした生活支援型デイケアの二部門に分かれており、幅広い疾患や年齢に対応している。

さらに、院内CRCが在籍しており、精神科領域における治験にも積極的に取り組んでいる。第Ⅱ層・第Ⅲ層臨床治験の実施数は60本以上、症例数では300例を超え全国的にも有数の実施医療機関である。

当院での研修は、統合失調症、うつ病、不安障害、双極性障害の薬物療法に加えて、精神科デイケアとリワークデイケアでの治療も学ぶことが出来る。さらに、当院の名誉院長である牛島定信先生から境界性人格障害の精神分析や精神療法の実践を学ぶことが出来る。

年間計画・週間計画を別紙30で示す。

②⑩施設名：埼玉県立精神医療センター

- ・施設形態：公立病院
- ・院長名：長尾真理子
- ・指導責任者氏名：長尾真理子

- ・指導医人数：(10) 人
- ・精神科病床数：(183) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	1 1	1 5
F1	3 3 4	2 2 0
F2	1 5 9	1 8 5
F3	6 3	5 7
F4 F50	1 3 6	4 1
F4 F7 F8 F9 F50	2 1 9	6 9
F6	5 7	7
その他	2 7	8

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

埼玉県立精神医療センターは、埼玉県唯一の公的単科精神科病院として高度専門医療を提供している。

病棟は全て閉鎖であり、スーパー救急病棟（50床）、依存症病棟（40床）、児童思春期病棟（30床）、精神科一般病床（30床）、医療観察法病棟（33床）の計183床で、外来は一般精神科外来から専門外来まで幅広く行っている。

疾患としては特に、精神作用物質使用による精神および行動の障害（F1）、統合失調症（F2）、心理的発達障害（F8）、小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害（F9）が症例豊富である。急性期を中心に、児童から高齢者、措置入院から任意入院・医療観察法対象者、地域医療から高度専門医療まで、精神科医療全般について経験できる。

多職種チーム医療が基本であり、入院初期から退院後の生活を見据えた濃厚な対応を行い、早期社会復帰を目指している。また、修正型電気けいれん療法、クロザピン、結核患者収容モデル事業による結核患者の治療、訪問看護も行っている。

スーパー救急病棟は、埼玉県精神科救急情報センターと連携を取りながら夜間休日を中心に措置入院等を受け入れ、また地域の医療機関では処遇困難な患者の診療も行っている。

依存症については、アルコール依存症のみならず薬物依存症の治療を行っている、本邦でも数少ない病棟を有している。外来と連携し、治療の動機付け・集団プログラム・疾病教育等、断酒・断薬の継続のための様々なアプローチをしている。特に外来では、認知行動療法に基づいた当院独自の薬物再乱用防止プログラム「L I F E（ライフ）」を行っている。

児童思春期病棟は県内唯一の病棟であり、院内学級も併設している。外来も含め、教育・福祉等の関係機関と連携を取りながら、個別指導・集団療法等をチームで行っている。

教育研究面では、倫理・安全管理・感染対策等の院内研修が充実しており、医師としての基本的診察能力（コアコンピテンシー）を高めることができる。

週間スケジュール、年間スケジュールを別紙31に示す。

②施設名：医療法人社団翠会 成増厚生病院

- ・施設形態：民間病院
- ・院長名：中村 満
- ・指導責任者氏名：大野 浩太郎
- ・指導医人数：13人
- ・精神科病床数：482床
- ・疾患別外来数・入院数 年間

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	40	36
F1	244	313
F2	282	519
F3	354	415
F4 F50	153	53
F4 F7 F8 F9 F50	6	3
F6	8	22
その他	45	48

・施設としての特徴

都市型の民間精神科病院であり、精神科スーパー救急病棟に加えてアルコール治療病棟・児童思春期病棟を有している。精神科の急性期治療を全般的に行っており、思春期から老年期まで多岐にわたる症例を数多く経験することができる。精神保健福祉士が365日24時間専従で、身体化救急から精神科救急への相談や要請に対応する「区西北部精神科情報センター」を病院内に開設しており、東京都区西北部における精神科救急の中心的役割を担っている。内科病棟も併設し内科医が常勤しているため、身体的な合併症の管理が必要な症例も内科医指導の下で多く経験することができる。また、急性期入院病棟における治療だけでなく社会復帰病棟からの地域移行支援も積極的に行い、在宅移行後も地域支援室が中心となり患者の治療やケア、生活のサポートを行っている。最近の試みとしては、早期予防の目的も兼ね、アルコール依存症患者の子供へのサポートも行っている。救急・急性期から回復期治療、さらには予防や早期介入まで幅広く精神科医療を学ぶことができる病院である。

□ 併設施設等

精神科デイケア、精神科救急情報センター、グループホーム、生活訓練施設
週間スケジュール、年間スケジュールを別紙32に示す。

②施設名：吉田病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：吉田 建世
- ・指導責任者氏名：松藤 正彦
- ・指導医人数：（4）人
- ・精神科病床数：（307）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	501	76
F1	70	32
F2	244	48
F3	247	30
F4 F50	360	5
F4 F7 F8 F9 F50	121	4
F6	4	1
その他	164	3

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当該施設は 307 床（精神科急性期治療病棟 42 床・精神科一般病棟 54 床・精神療養病棟 166 床・認知症治療病棟 45 床）の精神科病院です。外来部門として、精神科訪問看護・精神科デイ・ケア・重度認知症デイ・ケア、関連施設として、宿泊型自立訓練施設・グループホーム・延岡市地域活動支援センターを有し、急性期治療から回復期、社会復帰支援までトータルケアを提供しています。また、特に認知症治療に力を入れており、もの忘れ相談や MRI や SPECT を導入し、早期診断・早期治療を目指しております。

認知症疾患医療センターやアルコール依存症専門医療機関の指定を受けており、専門性の高い治療経験を積むことができます。

週間スケジュール、年間スケジュールを別紙 33 に示す。

②施設名：国立研究開発法人 国立国際医療研究センター国府台病院

- ・施設形態：国立高度専門医療研究センター（ナショナルセンター）
- ・院長名：青柳信嘉
- ・指導責任者氏名：伊藤寿彦
- ・指導医人数：（ 11 ）人
- ・精神科病床数：（ 135 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	135	33
F1	42	28
F2	271	223
F3	251	79
F4 F50	367	25
F4 F7 F8 F9 F50	637	52
F6	27	2
その他	266	20

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

国府台病院は、335 床、23 診療科の総合病院です。基幹型臨床研修病院でもあり、多くの若手医師と身体科の情熱ある指導医と協働しています。精神科の 2019 年度の ICD-10 分類症例数は上表に示しました。統合失調症圏、気分障害圏、認知症あるいは器質性精神障害、中毒性精神障害など多彩な症例の治療をチーム制で実践しています。入院形態は、措置入院 35 例、緊急措置入院 6 例、応急入院 7 例、医療保護 328 例、任意入院 108 例でした。また院内他科からコンサルテーション 139 例、リエゾン 164 例でした。24 時間精神科救急診療を行っており、時間内救急では救急車 85 例、その他 27 例。時間外救急では救急車 306 例、その他 387 例でした。また、児童精神科は独立した診療体制にありますが、入院治療では密接な連携がなされ、基本コースでも十分な児童青年期症例の研修が可能です。さらに、多職種による包括型地域生活支援プログラム（ACT）を国府台地域で実証してきた経緯もあり地域支援機関との連携も活発に実践しています。専攻医が、経験すべき症例および治療場面の全てを、網羅しています。治療抵抗性統合失調症のクロザピン治療は、100 例以上に実施してきました。統合失調症患者の家族心理教育の効果を実証し、現在は標準型家族心理教育プログラムを多職種で実践しています。患者の心理教育、グループ認知行動療法を実施しています。修正電気けいれん療法は毎週カンファレンスで適応を確認しながら年間 480 件実施しました。その他の特徴として、日本睡眠学会認定医による睡眠障害治療の指導も可能です。睡眠専門外来初診は 169 例でし

た。新規向精神薬の治験、臨床研究にも取り組んでいます。専攻医は、多忙であるが充実した研修が可能です。

・国府台病院・児童精神科の特徴

国立国際医療研究センター国府台病院は戦後まもなくから児童精神科専門病棟を運営してきた歴史があり、専門病棟を持つ唯一の国立高度医療研究センターです。その治療は同年代の仲間関係を利用しながら、子どもたちの主体性を伸ばし、一人でも多くの子どもが社会に参加していけることを目指した臨床と研究を実践しています。また、子どもに関わる様々な職種のスタッフが児童思春期精神医学の考え方や各治療技法を理解し習熟できるよう、医療、教育、福祉に関係する専門家の研修に寄与することも活動目標の一つとしています。2020度は精神科医師と小児科医師を含めた常勤医5名（精神科指導医3名、小児科専門医1名）、レジデント8名が治療に携わっています。外来診療は、約70名/日の外来患者の診療に当たっており、年間600名程度の初診患者を診療しています。また、当院の特徴として精神科開放病棟である児童精神科病棟（45床）を持ちます。長期の不登校児に対して社会参加の経験を増やすために、キャンプなどの活動的集団療法があります。また、小児の摂食障害を治療できる施設は少なく、身体的危機による緊急入院に対応するために、心療内科病棟での小児の摂食障害児の治療も行っています。

実際に行われている治療は、力動的療法、薬物療法、認知行動療法、集団療法、ペアレントトレーニング、集団親ガイダンスであり、各種カンファレンスでの指導や個別のスーパーバイズを受けることができます。幾つかの臨床研究も実践されています。精神科専門医取得後に児童精神科の専門的な研修をする場合には、興味のある分野での臨床研究の立案から論文作成まで可能であり、児童青年精神医学会の認定医を取得に向けた症例を経験することができます。なお、当院の児童精神科での研修の場合には、専門病棟で子どものケースみを担当する特徴があり、児童精神科研修に集中できる特徴があります。豊富な症例と、経験豊かな常勤医たちの指導もあり、多くのレジデントの育成をしてきた実績もあります。そして、同世代の専攻医たちと一緒に働くことも魅力の一つです。

週間スケジュール、年間スケジュールを別紙34に示す。

④・施設名：千葉県精神科医療センター

施設形態：公的単科精神科病院

院長名：深見 悟郎

指導責任者氏名：澁谷 孝之

指導医人数：6人

精神科病床数：50床

疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	32	4
F1	30	26
F2	1612	258
F3	586	69
F4 F50	162	2
F4 F7 F8 F9 F50	0	0
F6	11	1
その他	2	0

施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

精神科救急に特化した単科精神科病院である。当センターは千葉県精神科救急医療システムにおける救急医療センターであり、救急情報センターの役割も担っている。すなわち、千葉県内の夜間休日の救急受診相談がすべて当センターに集められ、受診先調整の後、患者は県内の基幹病院、輪番病院、あるいは当センターを受診することになる。当センターは、医療の入り口から出口を貫く4つの基本戦略（即応医療、集中医療、継続医療、包括医療）を立て、この戦略に沿って、24時間の電話相談と救急外来、短期集中的な急性期治療を担うコンパクトな病棟、在宅ケアを多職種で支えるデイホスピタル、アウトリーチ活動や関連機関とのネットワーク構築などを行う、多機能集約的な医療施設となっている。

対象疾患や年齢層は多岐にわたるが、入院外来を問わず、初診例は緊急性が高い症例が多く、当センターで外来を継続フォローしているケースは難治性で再発再燃を繰り返している症例が多い。入院症例は非自発的入院がそのほとんどを占め、統合失調症圏や気分障害（とくに双極性障害）が多く、物質依存や認知症も経験可能である。一方で一般の精神科病院と比較して児童思春期の症例は少なく、摂食障害は皆無である。外来症例に関しては統合失調症、気分障害のほか、軽症うつ病や不安障害、適応障害、発達障害など幅広く経験することができる。治療面では、難治症例に対するmECTやクロザピン治療も可能である。ここ数年は入院・外来患者および家族に対する統合失調症心理教育にも力を入れている。また在宅支援として、入院中患者の自宅外出に同行したり、外来患者の訪問診療も多職種チームにより行っている。

外部機関との連携は、近隣に所在する県救急医療センターに週1回医師が出向いてコンサルテーションに対応しているほか、医師数名がそれぞれ担当する保健所に定期的に赴き精神保健相談を行っている。

司法精神医学にも力を入れており、司法鑑定や成年後見鑑定、医療観察法における鑑定人や審判員としての関与、さらには通院指定医療機関として通院治療も行っている。前院長は現在、日本精神科救急学会理事長の職にあり、当センター内に日本精神科救急学会事務局が置かれ、積極的に学会発表を行っている。また、指導医のうち3名は当センターに在籍しながら千葉大学医学研究院に社会人入学して学位を取得している。以上のように当センターは救急病院とはいえ、精神科医療の入り口だけを担うのではなく、「重症の精神疾患でも急性期にきちんと治療すれば、短期間（3カ月以内）で家庭や社会に帰ることができる」という理念のもと、医師、看護師、精神保健福祉士、薬剤師など多職種が一丸となって、入り口から出口までの集中医療を行っている。

週間スケジュール、年間スケジュールを別紙35に示す。

㊤・施設名：医療法人社団宗美会 清水駿府病院

施設形態：民間病院

院長名：山崎 透

指導責任者氏名：水越 健太郎

指導医人数：3名

精神科病床数：160床

疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数	入院患者数
F 0	227	43
F 1	35	16

F 2	696	170
F 3	619	69
F 4 F 5 0	313	12
F 4 F 7 F 8 F 9 F 5 0	31	2
F 6	6	0
その他	41	3

・ 施設としての特徴

昭和 29 年に開院し、平成 9 年に医療法人となった。

静岡県中部の精神科救急基幹病院を担っており、24 時間 365 日精神科の救急患者様に対応しております。平成 18 年より精神科救急入院料病棟 (1) を 40 床で運用しています。

救急基幹病院なので扱う症例も多岐にわたり、当法人で多く医師が精神保健指定医を取得しています。精神科救急医療とともにリハビリテーションにも力を注ぎ、患者様の社会復帰を促しています。

デイケア・デイナトケア、地域活動支援センター、グループホームを運営し、精神科の患者様の入り口（急性期）から出口（社会復帰）までトータルにサポートしています。

・ 併設施設等

障害福祉サービス事業所、指定共同生活援助事業所

週間スケジュール、年間スケジュールを別紙 36 に示す。

②⑥・施設名： 国家公務員共済組合連合会 虎の門病院

施設形態： 公的総合病院

院長名：門脇 孝

指導責任者氏名：大前 晋

指導医人数：2 名

精神科病床数：10 床

疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数	入院患者数
F 0	73	5
F 1	14	5
F 2	61	4
F 3	307	18
F 4 F 5 0	702	33
F 4 F 7 F 8 F 9 F 5 0	14	8
F 6	37	2
その他	0	0

・ 施設としての特徴

当科は都心に位置する総合病院の精神科である。そのため勤労者

の精神障害を扱う機会が多く、復職支援にかかわる経験を積むことができる。また内科・外科などからの診察依頼が入院だけで年 800 件程度あり、リエゾン・コンサルテーション精神医学の経験を積むことができる。がん診療連携拠点病院であるため、がん患者の心理的問題を扱うことも多い。

多数の臨床心理士が在籍しており、連携して診療にあたる機会が豊富である。月に 1 回、心理部と合同の症例検討会を開催し、精神療法的アプローチや心理検査の評価法なども学ぶことができる。

病棟では、週 2 回、心理士・看護師・薬剤師を交えた多職種カンファレンスをおこない、患者診療の方針決定、情報共有をおこなっている。ソーシャルワーカーと連携して福祉資源を導入することも多い。

当科には精神病理学研究の伝統があり、月に 2 回、研究会・文献精読会を開催している。

週間スケジュール、年間スケジュールを別紙 37 に示す。

②⑦・施設名： 国家公務員共済組合連合会 虎の門病院分院

施設形態： 公的総合病院

院長名： 宇田川晴司

指導責任者氏名： 佐々木雅明

指導医人数： 1 名

精神科病床数： 20 床

疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数	入院患者数
F 0	20	4
F 1	5	1
F 2	30	6
F 3	160	32
F 4 F 5 0	100	20
F 4 F 7 F 8 F 9 F 5 0	35	7
F 6	35	7
その他	0	0

・施設としての特徴(扱う疾患の特徴等) 住宅地の総合病院であり、様々な年齢層の精神障害に対応している。とくに気分障害の診療に力を入れており、電気けいれん療法も実施している。内科・外科などからの診察依頼が多く、リエゾン・コンサルテーション精神医学の経験を積むことができる。

多数の臨床心理士が在籍しており、連携して診療にあたる機会が豊富である。

病棟では、週 2 回、心理士・看護師・薬剤師を交えた多職種カンファレンスをおこない、患者診療の方針決定、情報共有をおこなっている。ソーシャルワーカーと連携して福祉資源を導入することも多い。

当科には精神病理学研究の伝統があり、月に 2 回、研究会・文献精読会を開催している。

週間スケジュール、年間スケジュールを別紙 38 に示す。

⑳・施設名： 都立松沢病院

施設形態： 公的病院

院長名：水野雅文

指導責任者氏名：正木秀和

指導医人数：21名

精神科病床数：800床

疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数	入院患者数
F 0	852	509
F 1	949	424
F 2	3387	1503
F 3	1376	444
F 4 F 5 0	1030	196
F 4 F 7 F 8 F 9 F 5 0	1696	457
F 6	248	81
その他	599	257

・施設としての特徴(扱う疾患の特徴等) 当院は東京都世田谷区に位置し、東京都の行政精神科医療等で中核的な役割を担っている精神科病院である。800床の精神科病床を有し、精神科医が約40名在籍している。内科、神経内科、外科、整形外科、脳神経外科の身体合併症入院病床も有し、身体科の医師は約25名在籍する。精神科救急医療、急性期医療、身体合併症医療、社会復帰・リハビリテーション医療、青年期医療、認知症医療、アルコール・薬物医療、医療観察法病棟の他、デイケア、精神科作業療法等を行っている。精神科領域のほとんどの疾患を経験することができ、措置入院や医療観察法入院を含め、すべての入院形態の症例を扱っている。

週間スケジュール、年間スケジュールを別紙39に示す。

㉑・施設名： 医療法人芙蓉会 芙蓉会病院

施設形態： 私的単科精神科病院

院長名：村上拓也

指導責任者氏名：村上拓也

指導医人数：1名

精神科病床数：354床

疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数	入院患者数
F 0	235	145
F 1	127	61
F 2	586	143

・
徴
徴
当

F 3	380	61
F 4 F 5 0	150	20
F 4 F 7 F 8 F 9 F 5 0	878	50
F 6	42	6
その他	21	3

施設としての特
(扱う疾患の特
等)
院は、精神科急

性期治療病棟を含む 354 床の単科精神科病院である。主に内
因性精神病を主とした各種精神疾患の急性期対応を中心に、身体疾患を合併している精神
疾患患者の治療やリエゾン症例、認知症周辺症状を始めとした老年 期の精神疾患など、幅
広い臨床研修を履修することができる。特に児童思春期症 例が豊富、デイケアが豊富(大規
模、児童思春期、シルバーの3つある)、長期 入院者の退院促進を積極的に行っている、地
域に根差した医療の展開、措置入院 症例も豊富という特徴をもつ。
週間スケジュール、年間スケジュールを別紙 40 に示す。

- ③⑩・施設名：医療法人秀峰会 北辰病院
施設形態：私的精神科病院
院長名：小西俊一郎
指導責任者氏名：仲條龍太郎
指導医人数：4名
精神科病床数：238床
疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数	入院患者数
F 0	216	29
F 1	27	21
F 2	1697	465
F 3	1273	560
F 4 F 5 0	497	135
F 4 F 7 F 8 F 9 F 5 0	16	11
F 6	24	13
その他	21	3

・施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

当院は埼玉県にある 238 床の精神科病院で、精神科救急治療病棟を持ち、精神科 救急医
療の一端を担っている。難治統合失調症に対するクロザピンの登録医療機関 であり、修正
型電撃けいれん療法の実施も可能である。
週間スケジュール、年間スケジュールを別紙 41 に示す。

- ③⑪・施設名：医療法人三星会 かわさき記念病院
施設形態：民間病院
院長名：福井 俊哉
指導責任者氏名：大瀧 宏子

指導医人数：2名

精神科病床数：300床

疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数	入院患者数
F 0	1850	274
F 1	3	2
F 2	12	0
F 3	19	1
F 4 F 5 0	7	0
F 4 F 7 F 8 F 9 F 5 0	5	0
F 6	1	0
その他	134	0

・施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

高齢化社会を背景に急激に増加している認知症疾患に対して、短期集中的な治療とケアに特化した川崎市初の認知症専門病院であり、比較的新しく平成26年5月1日に開院した。民間精神科病院であり、300床(6病棟)のすべてが認知症治療病棟になっており、川崎市のみならず、横浜市・東京都より多くの患者が外来通院・入院加療を受けている。当院は、各病棟を少数病床のユニット形式に分け小規模ケアを行い、患者自身の生活圏を把握することが可能となり、また介入スタッフをなるべく固定化することで、短期間で認知症の周辺症状の改善、中核症状の進行予防を期待して病棟が構成されている。このケアは福祉先進国ではすでに取り組みされており、日本でもすでにグループホームなどの施設で取り入れられているが、医療機関ではほとんど取り組まれていないのが現状である。さらに理学療法士・作業療法士が365日入院患者に対してリハビリテーションを実施し、身体機能の回復ばかりでなく、精神症状の改善を図っている。また、重度認知症デイケアを有していることから、地域移行支援も積極的に行い、在宅移行後も継続した患者の治療やケア、生活のサポートを行っている。これらの取り組みが評価され、2021年8月に川崎市より認知症疾患医療センターの認可を受け、地域に根差した認知症診療を実践している。このように、幅広く認知症医療について学ぶことが出来る病院である。

・併設施設等：重度認知症デイケア、認知症疾患医療センター

週間スケジュール、年間スケジュールを別紙42に示す。

⑳・施設名：医療法人社団恵和会 朝田病院

施設形態：民間病院

院長名：朝田 武

指導責任者氏名：朝田 武

指導医人数：1名

精神科病床数：121床

疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数	入院患者数
F 0	36	18
F 1	8	1

・
徴
徴

F 2	362	109
F 3	379	65
F 4 F 5 0	102	10
F 4 F 7 F 8 F 9 F 5 0	73	7
F 6	1	0
その他	40	2

施設としての特
(扱う疾患の特
等)

単科の民間精神科病院であり、急性期に対応する病棟と社会復帰を目指す病棟に加えてストレスケア病棟8床を有している。近隣の大学病院やクリニックと密に連携し、思春期から老年期まで多岐にわたる症例を経験することができる。また、内観療法や森田療法、認知行動療法等を公認心理士とともに積極的に施行し、きめ細やかな診療を行っている。

○関連施設:恵和社会復帰センター

週間スケジュール、年間スケジュールを別紙43に示す。

3. 研修プログラム

1. 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1. 患者及び家族との面接、2. 疾患概念の病態の理解、3. 診断と治療計画、4. 補助検査法、5. 薬物・身体療法、6. 精神療法、7. 心理社会的療法など、8. 精神科救急、9. リエゾン・コンサルテーション精神医学、10. 法と精神医学、11. 災害精神医学、12. 医の倫理、13. 安全管理。各年次毎の到達目標は以下の通りである。

到達目標

1年目：基幹病院で週4～5日、指導医と一緒に統合失調症、気分障害、神経症性障害、摂食障害、人格障害、器質性精神障害等の患者等を主に入院で受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学び、リエゾン・精神医学を経験する。また、外来では主に予約外診療、救急診療を担当するとともに、初診外来の陪席を行う。それらにより基本的な薬物療法、精神療法を学ぶとともに、プライマリケアのありようを学ぶ。とくに面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。また、週に1日は連携施設にて勤務する。基幹病院と同様に、指導医と一緒に病棟、外来業務に従事するとともに、地域に密着した医療について学ぶ。院内研究会や学会で発表・討論する。

2年目：基幹病院及び連携病院で、指導医の指導を受けつつ、自立して、面接の仕方を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させ、精神療法として認知行動療法と力動的な精神療法の基本的考え方と技法を学ぶ。精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。ひきつづき精神療法の修練を行う。院内研究会や学会で発表・討論する。

3年目：指導医から自立して診療できるようにする。連携病院はより幅広い選択肢の中から専攻医の志向を考慮して選択する。認知行動療法や力動的な精神療法を上級者の指導の下に実践する。心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を学ぶ。外部の学会・研究会などで積極的に症例発表する。

2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」(別紙)、「研修記録簿」(別紙)を参照。

3) 個別項目について

1. 倫理性・社会性

基幹施設において他科の専攻医とともに研修会が実施される。コンサルテーションリエゾンを通して身体科との連携を持つことによって医師としての責任や社会性、倫理観などについても多くの先輩や他の医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができる。

2. 学問的姿勢

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心がける。その中で特に興味ある症例については、地方会等での発表や学内誌などへの投稿を進める。

3. コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1) 患者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾンコンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。

4. 学術活動(学会発表、論文の執筆等)

基幹施設において臨床研究、基礎研究に従事しその成果を学会や論文として発表する。

5. 自己学習

月曜12時より抄読会を行い、最新のエビデンスに基づき見聞を広めていく。

4) ローテーションモデル

典型的には3年間の前半(1年半)は東京医科大学病院をローテートし、精神科医としての基本的な知識を身につける。また、週に1日、連携施設に勤務し、地域医療を実践する。この中で、身体合併症治療、難治・急性期症例、児童症例、認知症症例を幅広く経験し、精神療法、薬物療法を主体とする治療手技、生物学的検査・心理検査などの検査手法、精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深めていく。3年間の後半(1年半)には連携施設で研修する。一般的には地域密着型の病院に派遣になることが多く、そこで精神科専門医だけでなく精神保健指定医の症例を集めることが可能である。これら3年間のローテート順と各病院での研修期間については、本人の希望に応じて柔軟な対応が可能である。

なお、13名の定員のうち、8名はシーリング対象外の都道府県の施設で1年半以上研修する「連携(地域研修)プログラム」の採用であり、最初の1年半基幹病院で研修し、次の1年半あるいはそれ以上の期間下記の連携病院で常勤医として研修する。該当する県は、北海道、青森、新潟、栃木、茨城、埼玉、神奈川、千葉、静岡、山梨、山形、宮崎、鹿児島のみ2道県であり、22施設である。

- <北海道>
社会医療法人博栄会 函館渡辺病院
- <青森県>
医療法人芙蓉会 芙蓉会病院
- <新潟県>
医療法人立川メディカルセンター 柏崎厚生病院
- <栃木県>
医療法人孝栄会 前沢病院
- <茨城県>
医療法人滝田会 丸山荘病院
東京医科大学茨城医療センター
医療法人社団恵和会 朝田病院
- <埼玉県>
埼玉県立精神医療センター
医療法人秀峰会 北辰病院
- <千葉県>
医療法人学而会 木村病院
医療法人静和会 中山病院
国立国際医療研究センター国府台病院
千葉県精神科医療センター
- <神奈川県>
国家公務員共済組合連合会 虎の門病院分院
医療法人三星会 かわさき記念病院
- <静岡県>
医療法人清仁会 日本平病院
一般財団法人富士心身リハビリテーション研究所附属病院
医療法人社団宗美会 清水駿府病院
- <山梨県>
公益財団法人リヴィーズ HANA ZONOホスピタル
- <山形県>
医療法人社団愛陽会 三川病院
- <宮崎県>
吉田病院
- <鹿児島県>
ウエルフェア九州病院

8名のうち7名は「2016年度足下充足率が0.8以下の都道府県」との「連携（地域研修）プログラム」の採用であり、最初の1年半基幹病院で研修し、次の1年半あるいはそれ以上の期間下記の県の連携病院で常勤医として研修する。該当する県は、新潟、栃木、茨城、埼玉、千葉、静岡の6県であり、14施設である。

- <新潟県>
医療法人立川メディカルセンター 柏崎厚生病院
- <栃木県>
医療法人孝栄会 前沢病院
- <茨城県>
医療法人滝田会 丸山荘病院
東京医科大学茨城医療センター
医療法人社団恵和会 朝田病院

<埼玉県>

埼玉県立精神医療センター
医療法人秀峰会 北辰病院

<千葉県>

医療法人学而会 木村病院
医療法人静和会中山病院
国立国際医療研究センター国府台病院
千葉県精神科医療センター

<静岡県>

医療法人清仁会 日本平病院
一般財団法人富士心身リハビリテーション研究所附属病院
医療法人社団宗美会 清水駿府病院

5) 研修の週間・年間計画
別紙 2～43 を参照。

・ プログラム管理体制について

・ プログラム管理委員会

委員長 東京医科大学病院 井上 猛
副委員長 東京医科大学病院 榎屋二郎
東京医科大学病院 松本恭典
坂井 俊之 (臨床心理士)、田上 裕美 (看護師)
日本平病院 加藤 亮太
医療法人社団 成仁病院 窪田恭彦
立川メディカルセンター柏崎厚生病院 吉濱 淳
丸山荘病院 山城 尚人
協和病院 椿 雅志
立正佼成会附属佼成病院 中野 正寛
三川病院 錦織 靖
富士心身リハビリテーション病院 引場 智
前沢病院 前沢 孝通
西八王子病院 三根 芳明
東京医科大学茨城医療センター 東 晋二
東京医科大学八王子医療センター 藤村洋太
HANAZONO ホスピタル 山角 駿
木村病院 渡邊 博幸
医療法人静和会中山病院 工藤 行夫
社会医療法人博栄会 函館渡辺病院 三國 雅彦
ウエルフェア九州病院 鮫島 稔弥
国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院 鬼頭伸輔
市ヶ谷ひもろぎクリニック 本郷誠司
埼玉県立精神医療センター 長尾真理子
医療法人社団翠会 成増厚生病院 中村 満
吉田病院 松藤 正彦
国立国際医療研究センター国府台病院 伊藤寿彦

千葉県精神科医療センター 澁谷孝之
清水駿府病院 山崎 透
虎の門病院 大前 晋
虎の門病院分院 佐々木雅明
都立松沢病院 正木秀和
芙蓉会病院 村上拓也
北辰病院 仲條龍太郎
かわさき記念病院 大瀧 宏子
朝田病院 朝田 武

- ・プログラム統括責任者
井上 猛
- ・連携施設における委員会組織
各連携病院の指導責任者及び実務担当の指導医によって構成される。

5. 評価について

1) 評価体制

委員長 東京医科大学病院 井上 猛
副委員長 東京医科大学病院 梶屋二郎
東京医科大学病院 松本恭典
成仁病院 窪田恭彦
三川病院 錦織 靖
立川メディカルセンター柏崎厚生病院 吉濱 淳
丸山荘病院 山城 尚人
協和病院 椿 雅志
日本平病院 加藤亮太
富士心身リハビリテーション病院 引場 智
前沢病院 前沢 孝通
立正佼成会附属佼成病院 中野 正寛
西八王子病院 三根 芳明
東京医科大学茨城医療センター 東 晋二
東京医科大学八王子医療センター 藤村洋太
HANAZONO ホスピタル 山角 駿
木村病院 渡邊 博幸
医療法人静和会中山病院 工藤 行夫
社会医療法人博栄会 函館渡辺病院 三國 雅彦
ウエルフェア九州病院 鮫島 稔弥
国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院 鬼頭伸輔
市ヶ谷ひもろぎクリニック 本郷誠司
埼玉県立精神医療センター 長尾真理子
医療法人社団翠会 成増厚生病院 中村 満
吉田病院 松藤 正彦
国立国際医療研究センター国府台病院 伊藤寿彦
千葉県精神科医療センター 澁谷孝之
清水駿府病院 山崎 透
虎の門病院 大前 晋
虎の門病院分院 佐々木雅明
都立松沢病院 正木秀和

芙蓉会病院 村上拓也
北辰病院 仲條龍太郎
かわさき記念病院 大瀧 宏子
朝田病院 朝田 武

2) 評価時期と評価方法

- ・3か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・ 研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。
- ・ 1年後に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。
- ・ その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。

3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」（別紙）に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回おこなう。東京医科大学病院にて専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル（別紙）
- 指導医マニュアル（別紙）
- ・ 専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価をおこない記録する。少なくとも年に1回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価をおこなうこと。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

・ 指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価をおこない、指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこない評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックをおこない記録し、翌年度の研修に役立たせる。

6. 全体の管理運営体制

1) 専攻医の就業環境の整備（労務管理）

東京医科大学病院；

勤務：平日日勤 9:00～17:10

第1、3、5土曜日 9:00～12:10

当直勤務： 17:10～翌9:00

（第1、3、5土曜日は12:10～9:00）

休日：日曜日、第2、4土曜日、祝祭日

病棟指導医と相談のうえ、業務に支障のない範囲で1週間の夏季休暇を含む計2週間の休暇を与える。

その他、慶弔休暇、産前産後休暇、介護休暇、育児休業など就業規則に規定された

ものについては請求に応じて付与できる。

連携施設に関しては各施設の労務管理基準に準拠する。

2. 専攻医の心身の健康管理

東京医科大学病院；

年1回の職員健康診断を実施する。

学内に設置された「学生・職員健康サポートセンター」において公認心理師や産業医による心身の健康管理や健康相談を実施し、異常の早期発見や早期対応に努めている。

連携施設に関しては各施設の労務管理基準に準拠する。

3) プログラムの改善・改良

基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

4) FDの計画・実施

年1回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。

別紙1 ローテーションモデル

1年目	2年目	3年目
東京医科大学病院 メンタルヘルス科にて研修（週1日連携病院で勤務）	連携病院で研修 （勤務体系は連携病院との契約による）	
連携病院で研修 （勤務体系は連携病院との契約による）		東京医科大学病院 メンタルヘルス科にて研修（週1日連携病院で勤務）
東京医科大学病院研修	連携病院で研修	他の連携病院で研修
東京医科大学病院研修	連携病院で研修	東京医科大学病院研修
東京医科大学病院研修	東京医科大学病院研修	連携病院で研修

週間予定・年間予定

いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

別紙2. 東京医科大学病院 週間予定

	月	火	水	木	金	土
8:45～	病棟カンファレンス					
9:00～	予診 外来 陪 席	予約外診 療	病棟業 務 リエ ゾン	関連病院 にて勤務	予約外診 療	病棟業 務 リエ ゾン
12:00	抄読会参加	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み
13:00 ～	病棟業務	病棟業 務 リエ ゾン	外来業務	関連病院 にて勤務	病棟業務 リエゾン	カンファレンス
14:00 ～	教授回診					
15:00 ～	病棟業 務 リエ ゾン	リエゾ ン 病棟 業務	外来業務	関連病院 にて勤務	リエゾ ン 病棟 業務	
16:30 ～	症例検討 会・抄読	リエゾ ン 病棟			リエゾ ン 病棟	
夜			関連病院に て当直		救急診 療 夜間病棟	

土曜日は第2・4土曜日は休診日
その他日曜日、祝日に当直有

※いずれの施設においても、就業時間が40時間/週を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。原則として、40時間/週を超えるスケジュールについては自由参加とする。

別紙3 東京医科大学病院 年間予定

4月	オリエンテーション 院内クルズス参加（5月以降も適宜実施、計12コマ）
5月	
6月	院内安全研修参加 日本精神神経学会学術総会参加（発表）
7月	日本神経精神薬理学会年会（任意）
8月	
9月	
10月	
11月	院内安全研修参加 東京精神医学会学術集会参加
12月	
1月	社会精神医学会（任意）
2月	
3月	東京精神医学会学術集会参加

院内研修は他にも不定期に実施される（診療報酬、ハラスメント等）。

学会には指導医と相談の上で参加不参加を決める。業務に支障のない範囲で他の学会にも積極的に参加することが望まれる。

別紙4 ≪研修計画：成仁病院≫

週間計画

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	外来予診	救急診療	外来陪席 (再診)	外来陪席 (初診)	救急診療 訪問診療
午後	病棟業務 m-ECT	外来陪席 (再診)	病棟業務 m-ECT	医局会 回診	病棟業務 m-ECT 訪問診療
17時以降		症例検討会			当直(月2回)

年間計画

4月	オリエンテーション
5月	
6月	
7月	
8月	
9月	
10月	日本精神科医学学術大会 東京都精神科病院協会学会
11月	
12月	
1月	
2月	足立区医学会
3月	

別紙 5

三川病院 年間計画

4月	オリエンテーション
5月	院内クルズス参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加 山形県精神科医の会参加
7月	
8月	適正就学支援に関する要点研修
9月	院内研究会参加
10月	東北精神神経学会参加
11月	山形心身医学研究会参加 山形精神病理・精神療法研究会参加
12月	
1月	
2月	三川町うつ病予防対策事業同行参加
3月	山形認知症研究会参加 研修プログラム評価報告書の作成

別紙 6 三川病院週間計画

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	病棟診察(リエゾン)	外来診察(予診)、指導医診察陪席	病棟診察、もしくは治療手技指導・脳波検査・心理検査陪席	デイケア診察陪席	外来診察(予診)、指導医診察陪席もしくは病棟診察
午後	入退院報告ミーティング、病棟診察、医局会	病棟診察抄読会	病棟診察(リエゾン)、障害者総合支援法・介護保険関係の診察(往診)陪席	アルコール勉強会参加(隔週)、病棟診察	知的障害施設診察(月1回)
17時以後				外部講師講演会参加(月1回程度)	

別紙7

立川メディカルセンター柏崎厚生病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
午前	院長外来 陪席 新患予診	病棟業務	病棟業務	デイケア 業務	院長外来 陪席 新患予診	院長外来 陪席 新患予診
午後	12:00 薬剤 説明会(月 2回) 12:30 入院 報告会議・ 医局会 病棟業務 17:00 入退 所判定会 議	関連施設 業務	病棟業務	12:30 院内 勉強会 病棟業務	病棟業務	
	17:10 総合 主任会議 (月一回) 17:30 感 染症対策 委員会(月 一回)	8:30 医 療安全委 員会(月一 回)	当直(週1 回)			

別紙 8

立川メディカルセンター柏崎厚生病院

年間スケジュール

4月		柏崎臨床精神医学研究会参加	
5月			
6月	日本精神神経学会参加	柏崎臨床精神医学研究会参加	東京医科大学医学会総会参加
7月			
8月		柏崎臨床精神医学研究会参加	
9月			
10月	日本精神医学会参加	柏崎臨床精神医学研究会参加	新潟精神医学会参加
11月			東京医科大学医学会総会参加
12月		柏崎臨床精神医学研究会参加	
1月			
2月	新潟県GHP研究会参加	精神鑑定事例検討会参加	

別紙 9

協和病院週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	病棟診察 外来診察 作業療法	病棟診察 外来診察 作業療法	病棟診察 外来診察 作業療法	病棟診察 外来診察 作業療法	病棟診察 外来診察 作業療法
午後	病棟診察 外来診察 作業療法	病棟診察 外来診察 病棟カンファレンス参加	訪問看護カンファレンス参加 生活技能訓練 院内研修参加 (不定期)	病棟診察 外来診察 作業療法	病棟診察 外来診察 作業療法

協和病院年間スケジュール

4月	オリエンテーション 院内研修参加
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 院内研修参加
7月	院内研修参加
8月	
9月	院内研修参加
10月	院内研修参加
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	院内研修参加

その他、感染対策委員会及び安全対策委員会を随時開催し、医療環境の充実を図っている。

別紙10

<日本平病院>

週間計画

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	外来診察 指導医診察陪席	デイケア診察陪席 外来診察	外来診察 指導医診察陪席	指導医診察陪席	外来診察 指導医診察陪席
午後	病棟診察	病棟診察	病棟診察 老健診察陪席 (月2回) 保健相談陪席 (月1回)	病棟診察 脳波検査陪席	病棟診察 障害者手帳及び自立支援医療 判定会陪席

別紙 11 :
年間研修計画

日本平病院

4月	オリエンテーション
5月	院内クルズス参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	院内クルズス参加
9月	日本精神科医学会学術大会参加
10月	日本デイケア学会年次大会参加
11月	院内クルズス参加
12月	
1月	
2月	院内クルズス参加

3月	研修プログラム評価報告書の作成

別紙 12：研修の週間・年間研修計画（連携）＜ 富士心身リハビリテーション研究所附属病院 ＞
・週間

	月	火	水	木	金
午前	精神科デイ 診察陪席	外来 指導医診察陪 席・予診 (脳波・心理検 査)	外来 指導医診察陪 席・予診	病棟診察 (リエゾン)	外来 指導医診察陪 席・予診
午後	サライトCにて 指導医診察陪 席・予診	病棟診察 症例検討会 (随時) 各種委員会 (月1回)	病棟診察 特別養護老人ホ ーム診察(月1回)	特別支援学校・ 障害者施設診 察 (隔週)	病棟診察 (作業療法)
17時 以後		薬物療法勉強 会 (月1回)			

別紙 13< 富士心身リハビリテーション研究所附属病院 >

・年間

4月	・オリエンテーション
5月	・院内クルズス参加
6月	・日本精神神経学会学術総会参加 ・静岡県東部精神科医会参加 ・精神保健に関する技術研修参加（発達障害早期総合支援研修）
7月	・富士・富士宮 物忘れ検討会参加 ・東部臨床精神科懇親会学術集会参加 ・アルコール依存症臨床医等研修参加
8月	・静岡県精神保健福祉事業講座参加
9月	・精神保健に関する技術研修参加（自殺対策相談支援研修）
10月	・院内研究参加
11月	・富士・富士宮 物忘れ検討会参加 ・静岡県東部精神科医会参加
12月	
1月	・精神保健に関する技術研修参加（発達障害支援医学研修）
2月	・静岡県かかりつけ医うつ病対応力向上研修会参加
3月	・東部臨床精神科懇親会学術集会参加 ・富士・富士宮 物忘れ検討会参加 ・研修プログラム評価報告書の作成

別紙 14 丸山荘病院
週間計画

	月曜日	火曜日	水曜日	金曜日
午前	入退院報告ミーティング 病棟診察・精神科 病棟	病棟診察・精神科 病棟 指導医診察陪席	外来診察	外来診察・初診患者 指導医診察陪席
午後	外来診察・再診患者 指導医診察陪席	外来診察・再診患者	病棟診察・療養病棟	病棟診察・療養病棟
17時以降		抄読会 月1回	当直	症例検討会 月2回

別紙 15 丸山荘病院

年間計画

4月	オリエンテーション 認知症初期集中支援チーム員会議にポート医と陪席 知的障害者入所施設嘱託医訪問同行・生活保護法による救護施設嘱託医訪問同行
5月	認知症初期集中支援チーム員会議にポート医と陪席 知的障害者入所施設嘱託医訪問同行・生活保護法による救護施設嘱託医訪問同行 認知症初期集中支援チーム員会議にポート医と陪席
6月	日本精神神経学会参加 知的障害者入所施設嘱託医訪問同行・生活保護法による救護施設嘱託医訪問同行 認知症初期集中支援チーム員会議にポート医と陪席
7月	知的障害者入所施設嘱託医訪問同行・生活保護法による救護施設嘱託医訪問同行 認知症初期集中支援チーム員会議にポート医と陪席
8月	知的障害者入所施設嘱託医訪問同行・生活保護法による救護施設嘱託医訪問同行 認知症初期集中支援チーム員会議にポート医と陪席
9月	知的障害者入所施設嘱託医訪問同行・生活保護法による救護施設嘱託医訪問同行 認知症初期集中支援チーム員会議にポート医と陪席
10月	知的障害者入所施設嘱託医訪問同行・生活保護法による救護施設嘱託医訪問同行 認知症初期集中支援チーム員会議にポート医と陪席
11月	知的障害者入所施設嘱託医訪問同行・生活保護法による救護施設嘱託医訪問同行 認知症初期集中支援チーム員会議にポート医と陪席
12月	知的障害者入所施設嘱託医訪問同行・生活保護法による救護施設嘱託医訪問同行 認知症初期集中支援チーム員会議にポート医と陪席
1月	知的障害者入所施設嘱託医訪問同行・生活保護法による救護施設嘱託医訪問同行 認知症初期集中支援チーム員会議にポート医と陪席
2月	知的障害者入所施設嘱託医訪問同行・生活保護法による救護施設嘱託医訪問同行 認知症初期集中支援チーム員会議にポート医と陪席
3月	石岡市自立支援協議会陪席 研修プログラム評価報告書の作成

医療保護入院者退院支援委員会、行動制限最小化委員会に参加可能

別紙 16<立正佼成会附属佼成病院>

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	外来診察	外来診察	外来診察	病棟診察 (リエゾン)	外来診察	外来診察
午後	外来診察 (予診) 病棟診察 (リエゾン)	外来診察 (予診) 病棟診察 (リエゾン)	外来診察 (予診) 病棟診察 (リエゾン)	病棟診察 (リエゾン)	外来診療 (予診) 病棟診察 (リエゾン)	

<立正佼成会附属佼成病院>

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会参加 日本老年精神医学会参加
7月	
8月	
9月	日本サイコオンコロジー学会参加
10月	
11月	日本総合病院精神医学会参加
12月	
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成

別紙 17 前沢病院

週間計画

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来	日直業務 (担当日 のみ)
	(予診)	(予診)	(予診)	(予診)	(予診)	(予診)	
	(陪席)	(陪席)	(陪席)	(陪席)	(陪席)	(陪席)	
	一部入院 業務	一部入院 業務	一部入院業 務	一部入院業 務	一部入院業 務	一部入院業 務	
	その他	その他	その他	その他	その他	その他	
午後	入院業務	入院業務	入院業務	入院業務	入院業務	入院業務	日直業務 (担当日 のみ)
	作業療 法・SST や デイケア 等のプロ グラムの 参加	作業療 法・SST や デイケア 等のプロ グラムの 参加	作業療法・ SST や デイケア等 のプログラ ムの参加	作業療法・ SST や デイケア等 のプログラ ムの参加	作業療法・ SST や デイケア等 のプログラ ムの参加	作業療法・ SST や デイケア等 のプログラ ムの参加	
	併設介護 老人保健 施設への 回診	ケース検 討会	併設介護老 人保健施設 への回診	併設介護老 人保健施設 への回診	併設介護老 人保健施設 への回診	併設介護老 人保健施設 への回診	
		医局会 (診療管 理会議)	法人内認知 症 グループホ ーム への訪問診 療		法人内認知 症 グループホ ーム への訪問診 療	法人内認知 症 グループホ ーム への訪問診 療	

	その他	その他	その他	その他	その他	その他	
夜間 (17 : 30 以 降)	夜間当直 業務 (担当日 のみ)	夜間当直 業務 (担当日 のみ)	夜間当直業 務 (担当日の み)	夜間当直業 務 (担当日の み)	夜間当直業 務 (担当日の み)	夜間当直業 務 (担当日の み)	夜間当直 業務 (担当日 のみ)

別紙 18 前沢病院

年間計画

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	日本精神科医学会学術大会参加
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	

※研修に関しては、上記の研修の他、法人が必要と認めた院内外の各研修に参加するものとする

[前沢病院]

- ☆ ① 入院業務 (105床)
 - 60床 (第一病棟) ・ ・ 精神療養病棟入院料 算定
 - 45床 (第二病棟) ・ ・ 精神病棟入院基本料 15対1 (旧3対1看護配置) 算定
 - 看護配置加算 (正看護師比率 70%以上) 算定
 - 看護補助加算 1 (6対1) 算定
- ☆ ② 外来業務 (1日平均 68名前後)
- ☆ ③ 在宅患者訪問診療 (月利用者 9名)
- ④ 精神科訪問看護・指導 (月平均 64名)
- ☆ ⑤ 精神科デイケア (大規模・定員 50名) (1日平均 13名前後)
- ☆ ⑥ 精神科デイ・ナイトケア (定員 50名) (1日平均 20名前後)
- ☆ ⑦ 精神科ナイトケア (定員 20名) (1日平均 5名前後)
- ☆ ⑧ 精神科ショートケア (大規模・定員 50名)
- ⑨ 精神科作業療法 (月平均 83名前後)
- ☆ ⑩ 心身喪失者等医療観察法：指定通院医療機関

[精神障害者社会復帰施設関連]

- ① 地域活動支援センター
 - (1) 居宅介護事業 (精神・身体・知的障害者へのホームヘルプサービス) (月利用者 14名) (1日平均 2.4名)
 - (2) 移動支援事業 (月利用者 1名)
 - (3) 相談支援事業 (月利用者 27名)
 - (4) 地域活動支援センター事業 (月利用者 40名)
 - (5) 自立生活援助事業 (月利用者 1名)
- ☆ ② 介護サービス包括型共同生活援助 (旧ケアホーム：定員 20名) (月利用者 20名)
- ☆ ③ 外部サービス利用型共同生活援助 (精神障害者グループホーム第1：定員 7名) (月利用者 7名)
- ☆ ④ 外部サービス利用型共同生活援助 (精神障害者グループホーム第2：定員 7名) (月利用者 6名)
- ☆ ⑤ 共同住居 (精神障害者準グループホーム：定員 11名) (月利用者 11名)
- ☆ ⑥ 就労継続支援B型 (定員 20名) (月利用者 12名) (1日平均 4.1名)

[介護老人保健施設 グリーンホーム]

- ☆ ① 施設入所 (定員 38名) (平均要介護度 3.3) (1日平均 33名)
- ☆ ② 短期入所療養介護・介護予防短期入所療養介護 (ショートステイ) (平均要介護度 2.3) (1日平均 1名)
- ☆ ③ 通所リハビリテーション・介護予防通所リハビリテーション (デイケア：定員 10名) (平均要介護度 2.0) (1日平均 4.2名)
- ④ 訪問看護 (現在利用なし)
- ⑤ 訪問介護・介護予防訪問介護 (ホームヘルプサービス) (平均要介護度 2.0) (1日平均 4.5名)

[居宅介護支援事業者 グリーンホームケアプランセンター]

- ① 居宅介護支援事業・介護予防支援事業 (ケアプラン作成他) (月作成数 36件)

[認知症高齢者グループホーム 陽だまり]

- ☆ ① 認知症対応型共同生活介護 (1ユニット定員 9名) (平均要介護度 2.1)
- ☆ ② 認知症対応型通所介護 (定員 3名) (1日平均 1.3名)

☆…Drの関わりが深い業務

別紙 20 西八王子病院年間計画表

時期	内容	備考
4月	オリエンテーション	
5月		
6月	精神神経学会学術総会	
7月	日本うつ病学会 日本産業精神保健学会	
8月		
9月	CMS学会	
10月	ストレスケア病棟研究会	
11月		
12月		
1月		
2月	I M S学会	
3月		

別紙 21 西八王子病院週間予定表

	月	火	水	木	金	土
8:50	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング
9:00	デイケア	訪問看護	こころのクリニックイムス八王子	外来	心理診断	
12:00	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	
13:00	病棟回診	病棟回診	こころのクリニックイムス八王子	病棟回診	病棟回診	
	急性期カンファレンス				ストレスケアカンファレンス	
17:15						

別紙 22 東京医科大学茨城医療センター 年間予定

4月	オリエンテーション 院内クルーズ参加（5月以降も適宜実施）
5月	日本老年精神医学会（任意）
6月	日本精神神経学会学術総会参加（発表） 院内安全研修参加
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	東京精神医学会学術集会参加（発表） 日本認知症学会（任意） 院内安全研修参加
12月	
1月	
2月	
3月	東京精神医学会学術集会参加（発表） 研修プログラム評価報告書の作成

院内研修は他にも不定期に実施される（診療報酬、ハラスメント等）。

各種学会には指導医と相談の上で参加不参加を決める。業務に支障のない範囲で他の学会にも積極的に参加することが望まれる。

週間予定（概略）

	月	火	水	木	金	土
8:30-	外来業務 個別症例指導	外来業務 個別症例指導	外来業務 個別症例指導	関連病院にて勤務	外来業務 個別症例指導	リエゾン業務 個別症例指導
12:00-	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	
13:00-	緩和ケアチーム回診	リエゾン業務 個別症例指導	リエゾンのチーム回診	関連病院にて勤務	リエゾンのチーム回診	
15:00-	リエゾン業務 個別症例指導	個別症例指導	専門外来の陪席	関連病院にて勤務	個別症例指導	
16:00-	症例検討会 抄読会					
夜間			関連病院にて勤務			

土曜日：第1、3、5 土曜日の午前業務

別紙23 東京医科大学八王子医療センター 年間予定

4月	オリエンテーション 院内クルズス参加
5月	院内クルズス参加
6月	院内安全研修参加 日本精神神経学会学術総会参加
7月	日本睡眠学会学術総会参加（任意）
8月	院内クルズス参加
9月	院内クルズス参加
10月	院内クルズス参加
11月	院内安全研修参加 東京精神医学会学術集会参加
12月	日本総合病院精神医学会学術総会参加（任意）
1月	社会精神医学会参加（任意）
2月	院内クルズス参加
3月	東京精神医学会学術集会参加

院内研修は他にも不定期に実施される。

学会には指導医と相談の上で参加不参加を決める。業務に支障のない範囲で他の学会にも積極的に参加することが望まれる。

<東京医科大学八王子医療センター 週間予定>

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	病棟診察 救命救急センター診察 (リエゾン)	生体臓器移植レシピエント診察	関連病院にてパート勤務	生体臓器移植ドナー診察	病棟診察 救命救急センター診察 (リエゾン)	病棟診察 救命救急センター診察 (リエゾン)
午後	回診 多職種カンファレンス	病棟診察 救命救急センター診察 (リエゾン)	関連病院にてパート勤務	病棟診察 救命救急センター診察 (リエゾン)	病棟診察 救命救急センター診察 (リエゾン)	

土曜日は第2・4 土曜日は休診日

別紙 24 HANAZONO ホスピタル 週間および年間計画

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8:30-9:00	連絡会 (申し送り)	病棟カンファ	病棟カンファ	病棟カンファ	病棟カンファ
9:00-12:00	病棟業務	外来予診	病棟業務	外来予診	病棟業務
12:00-13:00	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
13:00-16:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
16:00-17:30	チームカンファ	抄読会	症例検討会	医局会	病棟業務

4月	オリエンテーション 1年目専攻医研修開始 2・3年目専攻医前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出
5月	院内クルズス参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	東京精神医学会参加・演題発表 同門会講演会参加
8月	日本うつ病学会参加(任意)
9月	日本生物学的精神医学会参加(任意)
10月	1・2・3年目専攻医研修中間報告書提出
11月	東京精神医学会参加・演題発表
12月	日本総合病院精神医学会学術総会参加 (任意) 同門会講演会参加
1月	
2月	院内クルズス参加
3月	東京精神医学会学術集会参加 日本社会精神医学会参加 (任意) 1・2・3年目専攻医研修報告書作成

別紙 25 木村病院 週間予定・年間計画

(週間予定)

	月	火	水	木	金	土
9:00～ 9:15	モーニングカンファレンス					
9:15～ 12:00	病棟回診	外来業務	病棟業務	病棟業務	外来業務	
12:00～ 13:00	昼食他					
13:00～ 15:00	病棟業務	院内会議	病棟業務	病棟業務	病棟業務	
15:00～ 16:00	個別ケア 会議	新入院 カンファ	往診	病棟業務	病棟業務	
16:00～	院内会議	当直	入院症例 検討会	院内 クルズス	外来症例 検討会	

(年間計画)

4月	オリエンテーション、院内クルズス (5月以降も月1回実施：計12時間)
5月	院内安全研修・医療倫理研修・情報保護セキュリティ研修
6月	日本精神神経学会学術総会参加 (発表)
7月	日本神経精神薬理学会年会 (任意)
8月	DPAT 合同研修 (任意)
9月	
10月	周産期メンタルヘルス学会参加 (発表)：任意
11月	
12月	院内感染対策研修
1月	精神神経学会地方会参加 (症例報告・発表)
2月	精神障害にも対応した地域包括ケアシステム取りまとめ会 (参加)
3月	研修修了式 (院内発表会)

別紙 26 中山病院 週間および年間計画

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8:30-9:00	連絡会 (申し送り)	病棟カンファ	病棟カンファ	病棟カンファ	病棟カンファ
9:00-12:00	病棟業務	外来予診	病棟業務	外来予診	病棟業務
12:00-13:00	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
13:00-16:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
16:00-17:30	チームカンファ	抄読会	症例検討会	医局会	病棟業務

4月	オリエンテーション 1年目専攻医研修開始 2・3年目専攻医前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出
5月	院内クルズス参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	東京精神医学会参加・演題発表 同門会講演会参加 日本うつ病学会参加(任意)
8月	
9月	日本生物学的精神医学会参加(任意)
10月	1・2・3年目専攻医研修中間報告書提出
11月	東京精神医学会参加・演題発表
12月	日本総合病院精神医学会学術総会参加(任意) 同門会講演会参加
1月	
2月	院内クルズス参加
3月	東京精神医学会学術集会参加 日本社会精神医学会参加(任意) 1・2・3年目専攻医研修報告書作成

別紙 27 渡辺病院の週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟業務	病棟業務	入退院検討会	病棟業務	病棟業務
	外来予診	外来予診	外来予診	外来予診	外来予診
	外来陪診	外来陪診	外来陪診	外来陪診	外来陪診
午後	病棟業務	リエゾン診療	病棟業務	リエゾン診療	病棟業務
	チームカンファ レンス・回診				チームカンファ レンス・回診
	系統講義	訪問診療	系統講義	作業療法	系統講義
	論文抄読				

渡辺病院の年間スケジュール

月	内 容
4月	オリエンテーション 1年次専攻医研修開始 2年次、3年次専攻医研修報告書提出 指導医研修実績報告書提出
5月	
6月	日本精神神経学会 参加 南北海道精神科医会講演会 参加
7月	北海道精神神経学会 参加
8月	
9月	南北海道精神科医会講演会 参加
10月	
11月	南北海道精神科医会講演会 参加
12月	北海道精神神経学会 参加
1月	
2月	南北海道精神科医会講演会
3月	研修プログラム評価報告書の作成 1年次、2年次、3年次専攻医研修報告書作成

別紙 28 ウェルフェア九州病院

週間計画

	月	火	水	木	金	土
午前	外来陪席	認知症疾患医療センター業務	外来業務	外来陪席	外 来 業務	
午後	病棟業務	自己学習	病棟業務	多職種による病棟カンファレンス(毎週) 診療部会 (月 2 回)	病 棟 業務	
夜間	当直 (月 2 回程度)					

- ・ 診療部会で入退院カンファレンス実施。認知症疾患医療センターを受診した症例検討を実施。
- ・ 薬剤勉強会を 1～2 ヶ月に 1 回程度開催。
- ・ 院内研修を毎月 2 回開催。
- ・ 医療保護入院者退院支援委員会を随時開催。
- ・ 病棟症例検討会 (ケースカンファレンス) を週 1 回開催。
- ・ 退院支援ミーティングを月 1 回開催。

ウェルフェア九州病院 年間予定

4 月	オリエンテーション
5 月	認知症シンポジウム
6 月	日本精神神経学会学術総会 院内学会
7 月	鹿児島精神神経学会 認知症疾患医療連携協議会
8 月	かかりつけ医認知症対応力向上研修
9 月	日本精神科医学会学術大会
10 月	
11 月	
12 月	鹿児島精神神経学会
1 月	九州精神神経学会
2 月	かかりつけ医フォローアップ研修
3 月	経営方針発表会・定期講演会

その他、院内研修を毎月2回開催しており、行動制限、感染対策、医療安全は参加必須。医師会が開催する「医業倫理」「感染対策」「医療安全」「認知症サポート医研修」「自立支援法医師意見書研修会」「介護保険医師意見書研修会」などの各研修会に参加する。

上記学会へは指導医と相談の上、業務に支障のない範囲で参加。学会・研修等は上記の他、必要と認められた研修に参加可能。

週間スケジュール（一般精神科）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	多職種による病棟カンファレンス 病棟・外来診察	多職種による病棟カンファレンス 病棟・外来診察 部長回診(隔週)	多職種による病棟カンファレンス 病棟・外来診察 外来予診・部長診陪席 部長回診(隔週)	自己学習 または 保健所等訪問診療 または 病棟・外来診察	多職種による病棟カンファレンス 病棟・外来診察
午後	病棟・外来診察 気分障害、不安障害勉強会	抄読会(12:00～13:00) 病棟・外来診察 病棟ケースカンファレンス 精神科医局症例検討会(月1回)	病棟・外来診察(病棟集団CBT) 統合失調症研究会(月1回)	自己学習 または 保健所等訪問診療 または 病棟・外来診察	病棟・外来診察 光トポ判読会 統計セミナー(月1回)
17時以降	てんかんカンファランス (精神・小児神経・脳外科合同)	総合医局症例検討会(2カ月に1回) 精神医学セミナー(月1回) 臨床病理検討会(月1回) ブレインカッティング(月1回)		てんかんカンファランス (精神・小児神経・脳外科合同)	

週間スケジュール（医療観察法）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	病棟回診 病棟業務（*1）	病棟回診 病棟業務（*1）	病棟回診 病棟業務（*1）	自己学習 または 保健所等訪問 診療 または 病棟・外来診察	病棟回診 患者ミーティング
午後	医療観察法病棟担当医師会議 治療評価会議（*2）	病棟業務（*1） 倫理会議（月2回）（*3）	病棟業務（*1） 運営会議（月1回）（*4）	自己学習 または 保健所等訪問 診療 または 病棟・外来診察	病棟業務（*1）
17時以降		医局事例検討会（月1回）	精神鑑定事例研究会（月1回）		

*1 病棟業務の内容

- ・多職種チーム会議・面接の実施（医師・看護師・作業療法士・心理士・精神保健福祉士の5職種による各患者の担当チームの会議・チームと患者を交えた面接）
- ・CPA 会議への参加（患者及び家族・患者の担当多職種チーム・患者の帰住先地域の支援関係者による会議）
- ・医療観察法病棟内で実施している治療プログラムへの参加（疾病教育、物質乱用防止教育、内省プログラム、SST、NEAR など）

*2 全入院患者について前週の治療経過・社会復帰調整状況・外出泊の可否などを病棟関係者全体で評価、検討する。

*3 非同意治療、身体拘束、m-ECT・クロザピン導入などの可否について、2名の外部委員とともに評価、検討する。

*4 病院幹部に対し前月の治療評価会議・入退院状況を報告し、入院継続・退院許可など裁判所への提出書類への承認を得たり、治療ステージ変更・外出泊などの可否について検討したりする。

年間スケジュール

4月	オリエンテーション 1年目専攻医研修開始 2・3年目専攻医前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告書提出
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 医療観察法関連職種研修参加 司法精神医学会参加(任意)
7月	東京精神医学会学術集会参加(任意)
8月	精神医学サマーセミナー 日本うつ病学会学術集会参加(任意)
9月	1・2・3年目専攻医研修中間報告書提出 医療観察法指定入院医療機関 机上研修 日本生物学的精神医学会年会(任意) 東京精神医学会学術集会参加(任意)
10月	日本てんかん学会学術総会参加(任意) 日本臨床精神神経薬理学会(任意)
11月	日本総合病院精神医学会総会参加(任意) 日本臨床神経学会学術総会参加(任意)
12月	医療観察法上級研修会参加
1月	
2月	
3月	1・2・3年目専攻医研修報告書作成 専攻医まとめの会 院内研究発表会 東京精神医学会学術集会参加(任意) 日本臨床精神神経薬理学会(任意)

週間計画

	月	火	水	木	金	土
午前	デイケア 療法			リワーク デイケア 療法	指導医外 来	デイケア 療法
午後	デイケア 療法	リワーク デイケア 療法		リワーク デイケア 療法		
診療時間 以外			薬物療法 勉強会		症例検討 会	

年間計画

4月	勉強会（上島塾）
5月	勉強会（上島塾）
6月	勉強会（上島塾） 日本精神神経学会学術総会参加
7月	勉強会（上島塾） 日本うつ病学会総会参加
8月	勉強会（上島塾）
9月	勉強会（上島塾） 日本精神科医学会学術総会参加
10月	勉強会（上島塾） 日本デイケア学会年次大会参加
11月	勉強会（上島塾）
12月	勉強会（上島塾）
1月	勉強会（上島塾）
2月	勉強会（上島塾）
3月	勉強会（上島塾）

別紙 31 施設名：埼玉県立精神医療センター

就業時間が週 40 時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施する。

★ 週間スケジュール

1. スーパー救急病棟を中心とした基本的研修

	月	火	水	木	金	土日
午前	8:30～9:00 病棟申し送り	8:30～9:00 病棟申し送り	8:30～9:00 病棟申し送り	8:30～9:00 病棟申し送り	8:30～9:00 病棟申し送り	
	9:00～10:00 病棟科長・医長による保護室回診	9:00～10:00 病棟科長・医長による保護室回診	9:00～10:00 病棟科長・医長による保護室回診	9:00～10:00 病棟科長・医長による保護室回診	9:00～10:00 病棟科長・医長による保護室回診	
			9:30～11:30 電気けいれん療法	10:00～ 薬物療法CC※1	9:30～11:30 電気けいれん療法	
午後	13:30～14:00 病棟カンファレンス	12:30～13:00 病棟運営会議	13:30～14:00 病棟カンファレンス	13:30～14:00 病棟カンファレンス	13:30～14:00 病棟カンファレンス	
	14:00～16:00 電気けいれん療法	13:30～14:00 病棟カンファレンス	16:00～ 副病院長による新患カンファレンス			
5時以降	17:00～ 医局会		17:30～ 埼玉医大 松尾教授による症例検討会(月一回)			

・ 週間計画に記載されていない時間は、病棟・外来業務を行う。

・ 医局勉強会：隔週金曜日 12:30～13:00（症例検討、論文レビュー等）

※1... スーパー救急病棟入院患者の薬物療法の評価

※2... 主にスーパー救急病棟に新規入院した患者のCC

2. 依存症病棟を中心とした研修

		月	火	水	木	金	土日
第1週	午前	酒歴・薬歴発表 または	病棟LIFE ^{※1} 外来アルコールミーティング 13:30～14:00 病棟カンファレンス	入院患者のための勉強会	作業療法 外来アルコールミーティング	再飲酒・再使用予防トレーニング (CST)	
	午後	12:30～ 病棟運営会議 17:00～ 医局会	断酒会参加 アルコール家族教室	薬物家族教室 外来LIFE 16:00～ 動機付け面接練習会	レクリエーション 16:00～ 依存症CC ^{※2}		
第2週	午前	酒歴・薬歴発表 または スモールグループミーティング	外来ミーティング	入院患者のための勉強会 16:00～ 動機付け面接練習会	ウォーキング 外来アルコールミーティング	CST	
	午後	12:30～ 病棟運営会議 14:00～15:00 断酒会紹介 17:00～ 医局会	レクリエーション 外来アルコールミーティング	ダルクメッセージ 薬物家族教室 外来LIFE 16:00～ 動機付け面接練習会	ウォーキング反省会 16:00～ 依存症CC		
第3週	午前	酒歴・薬歴発表 または スモールグループミーティング	病棟LIFE 外来ミーティング	入院患者のための勉強会	作業療法 外来アルコールミーティング	CST	
	午後	12:30～ 病棟運営会議 17:00～ 医局会	断酒会参加 アルコール家族教室 19:00～20:00 NAメッセージ	栄養指導 マックメッセージ 薬物家族教室 外来LIFE 16:00～ 動機付け面接練習会	スマイルイベント または レクリエーション 16:00～ 依存症CC		
第4週	午前	酒歴・薬歴発表 または スモールグループミーティング	外来アルコールミーティング	入院患者のための勉強会 16:00～ 動機付け面接練習会	作業療法 外来アルコールミーティング	CST	
	午後	12:30～ 病棟運営会議 14:00～15:00 AA紹介 17:00～ 医局会	レクリエーション アルコール家族教室	マックメッセージ 薬物家族教室 外来LIFE	レクリエーション 16:00～ 依存症CC		
第5週	午前	酒歴・薬歴発表 または スモールグループミーティング	病棟LIFE 外来アルコールミーティング	入院患者のための勉強会	作業療法 外来アルコールミーティング	CST	
	午後	12:30～ 病棟運営会議 17:00～ 医局会		外来LIFE 16:00～ 動機付け面接練習会	レクリエーション 16:00～ 依存症CC		

- ・毎日 8:30～9:00 病棟申し送り 9:00～9:15 朝の病棟患者ミーティング 13:30～14:00 病棟カンファレンス
- ・週間計画に記載されていない時間は、病棟・外来業務を行う。
- ・医局勉強会：隔週金曜日 12:30～13:00（症例検討、論文レビュー等）
- ・依存症病棟ウォーキングプログラム 月1回

※1… 薬物依存症再発防止プログラム

※2… 主に依存症病棟に入院した患者のCC、動機付け面接ロールプレイ

3. 児童・思春期病棟を中心とした研修

	月	火	水	木	金	土日
午前	8:30～9:00 病棟申し送り	8:30～9:00 病棟申し送り	8:30～9:00 病棟申し送り	8:30～9:00 病棟申し送り	8:30～9:00 病棟申し送り 10:00～11:30 家族教室	
午後	13:00～13:30 病棟運営会議 13:30～14:00 病棟カンファレンス 14:45～15:45 男女別グループ活動 16:00～16:30 農作業	14:00～15:30 不登校児のための外来 グループ活動 15:30～16:00 患児によるコミュニケーション ミーティング (隔週)	13:30～14:00 病棟カンファレンス 14:45～15:30 病棟ミーティング (集団精神療法)	13:30～14:00 病棟カンファレンス 14:15～15:15 OTによるレクリエーション	13:30～14:00 病棟カンファレンス 14:45～15:45 S S T 15:30～16:30 グループ活動「鉄道友の会」 15:30～16:30 学校病棟CC*1	
5時以降	17:00～ 医局会					

- ・週間計画に記載されていない時間は、病棟・外来業務を行う。
- ・医局勉強会：隔週金曜日 12:30～13:00 (症例検討、論文レビュー等)
- ・児童思春期病棟ウォーキングプログラム 月1回
- ・外部講師による児童思春期症例検討会 月1回
- ・ADHDの親たちへのペアレントトレーニング/10回1クール、年2クール

※1... 児童思春期病棟に入院中で院内学級に登校している児童のCC

★ 年間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	埼玉県精神神経科医会学術講演会
6月	日本精神神経学会学術総会
7月	埼玉精神医学懇話会
8月	埼玉子ども心ころ臨床研修会
9月	埼玉県精神神経科医会学術講演会
10月	
11月	
12月	
1月	埼玉精神医学懇話会
2月	全国児童青年精神科医療施設協議会研修会 埼玉県精神神経科医会学術講演会
3月	総括的評価

職員全体研修（適宜開催）

医療安全、倫理、危機管理、救命救急処置、静脈血栓塞栓症予防、感染対策、精神保健福祉法の理解と実際、行動制限最小化、チームSTEPPS、危険予知トレーニング、無断離院シミュレーション等

別紙 32 成増厚生病院

週間計画

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟業務	病棟業務	病棟業務	デイケア業務 病院外来陪席	病棟業務	
午後	クリニック 外来業務	医局会 症例検討会	病棟業務 抄読会	病棟業務	カンファレンス	

当直（月 2 回程度 1 年次 10 月より）

年間計画

4 月	オリエンテーション 1 年目専攻医研修開始 指導医の指導実績報告書提出
5 月	
6 月	日本精神神経学会総会参加 情報セキュリティ研修 行動制限研修
7 月	感染研修 リスク研修
8 月	
9 月	1・2・3 年目専攻医研修中間報告書提出
10 月	防災研修
11 月	翠会ヘルスケアグループ地域精神保健学会 感染研修 行動制限研修
12 月	日本精神科救急学会参加（任意）
1 月	リスク研修
2 月	首都圏ECT ネットワーク研究会（任意） 感染研修 行動制限研修
3 月	1・2・3 年目専攻医研修報告書作成・提出

別紙 33 吉田病院

週間計画

	月	火	水	木	金
午前	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務
午後	病棟業務 13:30 病棟 回診 16:30 医局 会	病棟業務 13:30 病棟 回診	外来・病棟業 務	外来・病棟業 務	外来・病棟業 務

年間計画

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会総会参加 日本老年精神医学会参加 宮崎県精神科医会参加・演題発表
7月	日精協日本精神医学会参加
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	九州精神医療学会参加・演題発表 宮崎県精神科医会参加・演題発表
1月	
2月	
3月	

別紙 34 国府台病院
週間計画基本コース

	月	火	水	木	金
0830-0900	病棟での申し送り チーム・ミーティング				
0900-1200	チーム回診 病棟診療	病棟診療 外来診療 (初診の予 診・陪席)	病棟診療	病棟診療 外来診療 (初診の予 診・陪席)	病棟診療
1200-1300					抄読会
1300-1700	病棟診療	病棟診療 リエゾン診 療	病棟診療	病棟診療 リエゾン診 療	病棟診療
1400-1500		多職種退院 促進カンフ ァレンス		病棟心理教 育	
1500-1600		医局会			
1600-1700	研修医クルズス	チーム・カン ファレンス		自己学習	自己学習
1700-1730	新入院カンファ レンス				症例検討会 (月に1回)

- 精神科全体での新入院カンファレンスおよび症例検討会を開催しますが、日常診療は3チームに分かれて実践するので、外来診療およびリエゾン診療等は、指導医の日程により変わります。
また、救急診療も、チーム制で、日常診療の一環として実践します。
- 尚、当直業務は、原則は1年目の、7月以降から、指導医と2名体制で行います。

週間計画児童精神科

	月	火	水	木	金
0830-0930	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス
0930-1130	外来初診 (予審・陪席)	外来診療	児童精神科ケースカンファレンス	外来診療	外来診療
1300-1400	病棟診療	外来診療 レクリエーション(不定期)	病棟患者のレビュー	外来診療 レクリエーション(不定期)	外来診療
1400-1600	病棟診療	精神科医局会 病棟診療	特別病棟連絡会	外来診療	外来診療
1600-	病棟診療	病棟診療	病棟診療	病棟診療	病棟診療
1800-				研究会	

- 病棟カンファレンス：
児童精神科医師と病棟看護師の毎朝のカンファレンス。火曜日、金曜日は、院内の小学生と中学生の担当教師、心理士、精神保健福祉士が参加する。
- 児童精神科ケースカンファレンス：
指導医および専攻医等、精神保健福祉士が参加。診療での指導、スーパーバイズなど。
- 病棟レビュー：
新入院症例を中心とした、指導医および専攻医等のカンファレンス
- 特別病棟連絡会：
院内学校に参加する患児の養育および治療について協議する。教師、児童精神科医師、精神保健福祉士、心理士等のカンファレンス。
- 研究会：
学会発表の指導、臨床研究の立案、報告。論文抄読など。
- 家族会：月に1回開催
児童精神科医師および病棟看護師で運用。その他、学校教師、精神保健福祉士が参加する。

年間計画 国府台病院

4月	千葉県総合病院精神科研究会	院内のオリエンテーション
5月		市川市地域・病院合同勉強会（市役所、保健所、地域支援施設など、多職種の勉強会）
6月	日本精神神経学会学術総会 日本老年精神医学会 日本司法精神医学会	国府台病院グランドカンファレンス （院内の全科医師が参加） 臨床研究認定講習会
7月	日本睡眠学会	行動制限最少化委員会研修 市川市地域・病院合同勉強会
9月	日本精神科救急学会 日本臨床精神薬理学会	*研修の6か月間の報告書を作成 臨床研究認定講習会
10月	日本精神科救急学会 日本臨床精神薬理学会	統合失調症家族の標準型心理教育の 研修会（2回） 市川市地域・病院合同勉強会 国府台児童精神医学研究会
11月	日本総合病院精神医学会総会	統合失調症家族の標準型心理教育 臨床研究認定講習会
12月		統合失調症家族の標準型心理教育
1月		行動制限最少化委員会研修 統合失調症家族の標準型心理教育
2月		統合失調症家族の標準型心理教育
3月	日本集団精神療法学会	*研修の1年間の総括的評価 研修プログラム評価報告書の作成

国府台病院児童精神科

4月	東京児童精神医学研究会	院内のオリエンテーション 国府台児童精神医学研究会
5月		
6月	日本精神神経学会学術総会	児童精神科病棟の鋸山遠足 国府台病院オープンカンファレンス
7月	欧州児童青年精神医学会（任意）	児童精神科病棟の1泊キャンプ
8月	国際児童青年精神医学会（任意）	
9月		*研修の6か月間の報告書を作成 国府台児童精神医学研究会
10月	児童精神薬物療法研究会	
11月	日本児童青年精神医学会	国府台病院オープンカンファレンス
12月		児童精神科病棟のクリスマス会
1月	千葉県児童青年精神医学研究会	
2月		厚生労働省こころの健康づくり事業 児童思春期精神保健の研修会を運用
3月	日本集団精神療法学会	*研修の1年間の総括的評価 研修プログラム評価報告書の作成 児童精神科病棟の、お別れ会

・その他の、国府台病院での各種の研修会は、国府台病院の年間計画を参照下さい。

別紙35 千葉県精神科医療センター

週間計画

	日	月	火	水	木	金	土
午前	副直明け	休み	病棟業務 ECT 当番	病棟当番	副直明け	救急当番	副直
午後	休み	休み	新入院カンファレンス 病院長回診 医局会	救急当番	休み	病棟業務	副直
夜間	休み	休み	休み	副直	休み	休み	副直

※病棟当番：当直業務中に入院した患者についての翌日の対応と、病棟全般で生じる処置等を担当する。

※病棟業務：専攻医の裁量により業務に充てられる時間。主に入院患者の診療が中心だが、退院後患者の外来診療や、訪問診療等に充てたりしている。

※救急当番：初診の外来患者診察、他医療機関からの入院依頼、警察や救急からの救急受診相談等に従事する。初診は、原則専攻医が主たる診療を行い、適宜指定医のフィードバックを受けることができる。

※副直：17時から翌日8時半まで、指定医とペアで当直(非指定医は副直)業務に従事する。当センターの入院患者年間約400名弱の6割程度が当直時間帯での入院であり、多くて1回の当直で3人程度の入院を経験できる。院内併設の千葉県救急情報センターにおける受診調整業務も行う。当直時間帯に全県下で発生する相談に対し、身体的状況や心理社会的な背景も考慮しながら緊急性や重症度を吟味し、指定医や精神保健福祉相談員と相談しながら、精神科救急医療システムに則って受診病院を電話調整する。当直回数は月5～6回である。一方、4週8休は守られており、休日に勤務の場合は、平日に代休が確保される。上記の通り、精神科当直業務としては多忙な部類にはいるが、一方で指定医の人数は豊富で丁寧な指導を受けることが可能である。

※新入院カンファ：過去1週間で当センターに入院した患者について、主治医がプレゼンテーションを行い、当センター医師全員の他看護師長、PSW、薬剤師等の多職種によりディスカッションを行い、診断や治療方針の確認等を行う。

年間計画

4月	新入レジデントオリエンテーション（多職種による） 1年次専攻医研修開始
6月	日本精神神経学会学術総会 日本精神科救急学会教育研修会
10月	専攻医の研修報告書提出 日本精神科救急学会学術総会
2月	千葉県立病院学術集会＊1 千葉県精神科救急システム連携研修会＊2
3月	専攻医の研修報告書および研修プログラム評価報告書提出 指導医の指導実績報告提出 研修プログラム管理委員会

＊1 千葉県立病院（がんセンター、救急医療センター、循環器病センター、こども病院、佐原病院、精神科医療センター）に勤務する多職種による学術集会

＊2 千葉県精神科救急医療システムに参画する病院、警察、消防、行政（保健所、精神保健福祉センター、役所担当課）、診療所協会が参加する多職種による研修会

【週間スケジュール】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	外来陪席 外来診察	外来陪席 病棟業務	外来陪席 外来診察	外来陪席 外来診察	外来陪席 病棟業務
午後	病棟業務 診療会議	病棟業務 症例検討会	病棟業務 クルズス	病棟業務	病棟業務

【年間スケジュール】

	スケジュール
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	静岡県中部精神科医会参加
10月	
11月	日本精神科救急学会学術総会参加
12月	
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成

別紙37 国家公務員共済組合連合会 虎の門病院

週間スケジュール

曜日	時間	事項
月曜	AM PM	申し送り、病棟回診、病棟診療、外来見学 病棟診療
火曜	AM PM	申し送り、病棟症例検討会、病棟診療 病棟診療、外来予診
水曜	AM PM	申し送り、病棟回診、病棟診療 病棟診療
木曜	AM PM	申し送り、病棟症例検討会、病棟診療、心理カンファレンス 病棟診療、外来見学
金曜	AM PM	申し送り、病棟回診、病棟診療 病棟診療、研究会

年間スケジュール

4月	オリエンテーション 1年目専攻医研修開始 2・3年目専攻医前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告書提出
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	東京精神医学会学術集会参加（任意）
8月	
9月	
10月	日本精神病理学会大会参加（任意）
11月	日本総合病院精神医学会総会参加（任意） 東京精神医学会学術集会参加（任意）
12月	
1月	
2月	
3月	1・2・3年目専攻医研修報告書作成 東京精神医学会学術集会参加（任意）

別紙38 国家公務員共済組合連合会 虎の門病院分院

週間スケジュール

曜日	時間	事項
月曜	AM	申し送り、病棟回診、病棟診療
	PM	病棟診療、外来見学
火曜	AM	申し送り、ECT、病棟回診、病棟診療
	PM	病棟診療、外来予診
水曜	AM	申し送り、病棟症例検討会、病棟診療
	PM	病棟診療、外来見学
木曜	AM	申し送り、ECT、病棟回診、病棟診療
	PM	病棟診療
金曜	AM	申し送り、病棟症例検討会、病棟診療
	PM	病棟診療、研究会

年間スケジュール

4月	オリエンテーション 1年目専攻医研修開始 2・3年目専攻医前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告書提出
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	東京精神医学会学術集会参加（任意）
8月	
9月	
10月	日本精神病理学会大会参加（任意）
11月	日本総合病院精神医学会総会参加（任意） 東京精神医学会学術集会参加（任意）
12月	
1月	
2月	
3月	1・2・3年目専攻医研修報告書作成 東京精神医学会学術集会参加（任意）

別紙39 都立松沢病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
0830-0900	病棟ミーティング	病棟ミーティング	病棟ミーティング	病棟ミーティング	病棟ミーティング
0900-1200	病棟業務	病棟業務 新患予診	病棟業務	病棟カンファ	病棟業務
12015-1315	クルスス			クルスス	
1330-1700	病棟業務 入退院カンファレンス	院長回診 病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
	1630-1800 ケースカンファレンス	1715～1800 医局会			
1815-2045		集談会・講演会 (月1回)			

年間スケジュール

4月	オリエンテーション 1年目専攻医研修開始 2・3年目専攻医前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告書提出
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	東京精神医学会学術集会参加 (任意)
8月	
9月	日本生物学的精神医学会年会 (任意)
10月	1・2・3年目専攻医研修中間報告書提出 日本臨床精神神経薬理学会年会 (任意)
11月	日本総合病院精神医学会総会参加 (任意) 東京精神医学会学術集会参加 (任意)
12月	
1月	
2月	2年目専攻生東京医師アカデミー研究発表
3月	1・2・3年目専攻医研修報告書作成 東京精神医学会学術集会参加 (任意)

別紙40 芙蓉会病院

	月	火	水	木	金
午前	外来予診	外来陪席	病棟業務	外来陪席	病棟業務
午後	病棟業務	医局会（第2・4）症例検討会	病棟業務、デイケア業務	病棟業務、病棟カンファレンス	病棟業務 集団精神療法

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会 参加
7月	
8月	
9月	精神神経学会地方会
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	研究報告会
3月	

その他、医師会が開催する「医療倫理」「感染対策」「医療安全」の各研修に 参加する。

別紙41 北辰病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
8:30～ 9:00	申し送り	申し送り	申し送り	申し送り	申し送り	
9:00～ 10:00	全体ミーティ ング	全 体 ミ ー ティ ング	全 体 ミ ー ティ ング	外来	全 体 ミ ー ティ ング	
10:00～ 12:00	救急病棟カン ファレンス 病棟業務	病棟業務	病棟業務 外来予診		病棟業務	
13:00～ 16:00	病棟業務	外来	病棟業務	病棟業務	病棟業務	
16:00～ 17:30		病棟業務				

第2週、第3週火曜、木曜：退院支援会議

月2回：医局会

随時実施：ECT（電気けいれん療法）症例見学、診療

随時実施：クロザピン症例見学、診療

随時実施：家族教室見学

年間スケジュール

4月	新入職者・研修医に対する研修（約1週間）
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	
1月	中堅職員症例発表会
2月	新入職者症例発表会
3月	

【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟業務	病院外来陪 席	病棟業務	デイケア業務	病棟業務	
午後	病棟業務	症例検討会	病棟業務 抄読会	病棟業務	医局会	

○早番・遅番（月4回程度）

【年間スケジュール】

+

4月	<input type="checkbox"/> オリエンテーション <input type="checkbox"/> 1年目専攻医研修開始 <input type="checkbox"/> 指導医の指導実績報告書提出
5月	医療安全研修
6月	<input type="checkbox"/> 日本精神神経学会総会参加 <input type="checkbox"/> 日本老年精神医学会参加（任意） <input type="checkbox"/> 情報セキュリティ研修 <input type="checkbox"/> 行動制限研修
7月	<input type="checkbox"/> 感染対策研修・リスク研修
8月	
9月	<input type="checkbox"/> 1・2・3年目専攻医研修中間報告書提出
10月	<input type="checkbox"/> 防災研修
11月	<input type="checkbox"/> 日本認知症学会参加（任意）
12月	
1月	<input type="checkbox"/> 医療安全研修
2月	<input type="checkbox"/> 感染対策研修 <input type="checkbox"/> 行動制限研修
3月	<input type="checkbox"/> 1・2・3年目専攻医研修報告書作成・提出

別紙43 朝田病院

[週間スケジュール]

	月	火	水	木	金	第2、第4 第5	土のみ
午前	外来	外来	外来	外来	外来		外来
午後	外来	病棟	病棟	外来	外来		外来
	病棟	症例検討会	デイケア	病棟	病棟		病棟
				症例検討会			

○当直（月4回程度 1年時4月より）

[年間スケジュール]

- 4月 オリエンテーション 1年目専攻医研修開始
- 5月 医療安全研修
- 6月 日本精神神経学会総会参加 感染研修 避難訓練
- 7月 行動制限研修
- 10月 避難訓練
- 11月 医療安全研修
- 12月 感染研修
- 1月 行動制限研修
- 3月 専攻医研修報告書作成・提出